# MAID 3.1

# Revision19J

February 29, 2016

## 目次

1 著	者	5
2 <sub>]</sub>	ンヤプト	エラー! ブックマークが定義されていません。
2.1	・ 大きな画像	
$\frac{2.1}{2.2}$		
2.3		5
$\frac{2.3}{2.4}$		6
2.4	2、700代到	0
3 使	·用法	7
3.1	モジュールのロード	7
3.2	モジュールの初期化	7
3.3		7
3.4		8
3.5		9
3.6		9
3.7	ベンダー固有 capability の使用	9
3.8		9
3.9		10
3.10		11
3.11		12
3.12		12
3.13		12
3.14		
3.15		13
3.16		13
0.20		
4 —	z = : : <b>=</b>	14
4.1	戻り値	14
4.2	データオブジェクト型	14
4.3	データ型	15
4.4		15
4.5		15
4.6		16
4.7		16
4.8	オブジェクト型	16
4.9		16
4.10	ユーザインターフェイス要求型	17
4.11	ユーザインターフェイス値	17
4.12	フィルタ	17
4.13	コマンド	18
4.14		19
4.15		20
4.16		20
4.17		20
4.18		
4.19	Flash Modes	21
5 構	<i>造体と型</i>	21
5.1		21
5.2		21
5.3		21
5.4		21
5.5		21
5.6	MAID Entry Point 関数ポインタ	21
5.7		
5.1 5.8		
5.9		22
5.9 5.10		22
5.10		
5.11		22
5.13		22

		MAID3
5.14	ポイント構造体	22
5.15		
5.16	矩形構造体	
5.17		
5.18		
5.19	範囲構造体	24
5.20		24
5.21		24
5.22	ユーザインターフェイス要求構造体	25
5.23	••••	26
5.24		26
5.25		
5.26		
5.27	ファイルデータ配送構造体	28
6 戻	ヹ <i>り値</i>	28
6.1	kNkMAIDResult_NotSupported	29
6.2	kNkMAIDResult_UnexpectedDataType	
6.3	kNkMAIDResult_ValueOutOfBounds	
6.4	kNkMAIDResult_BufferSize	
6.5	kNkMAIDResult_Aborted	29
6.6	kNkMAIDResult_NoMedia	
6.7	kNkMAIDResult_NoEventProc	
6.8	kNkMAIDResult_ZombieObject	
6.9	kNkMAIDResult_NoError	
6.10		30
6.11	kNkMAIDResult_OrphanedChildren	
6.12		
6.13	- ,——————	
6.14		
6.15 6.16		30
	•	
	ベント	
7.1	kNkMAIDEvent_AddChild	
7.2	kNkMAIDEvent_RemoveChild	
$7.3 \\ 7.4$	kNkMAIDEvent_WarmingUpkNkMAIDEvent_WarmedUp	31 31
7.4 $7.5$	kNkMAIDEvent_CapChange	
7.6	kNkMAIDEvent_OrphanedChildren	
7.7	kNkMAIDEvent_CapChangeValueOnly	
•••	manufacture of the second of t	
	マンド	
8.1	kNkMAIDCommand_Async	
8.2	kNkMAIDCommand_Open	33
8.3	kNkMAIDCommand_Close	
8.4 8.5	kNkMAIDCommand_GetCapCount	
8.6	kNkMAIDCommand_GetCapInfokNkMAIDCommand_CapStart	
8.7	kNkMAIDCommand_CapStartkNkMAIDCommand_CapSet	
8.8	kNkMAIDCommand_CapGet	35
8.9	kNkMAIDCommand_CapGetDefault	
8.10		
8.11	kNkMAIDCommand_Mark	
8.12	kNkMAIDCommand_AbortToMark	37
8.13	kNkMAIDCommand_Abort	38
8.14		
8.15	kNkMAIDCommand_GetParent	
8.16	kNkMAIDCommand_ResetToDefault	
9 Ci	apabilities	20
9.1	kNkMAIDCapability_AsyncRate	39
9.2	kNkMAIDCapability_ProgressProc	39
9.3	kNkMAIDCapability_EventProc	
9.4	kNkMAIDCapability_DataProc	
9.5	kNkMAIDCapability_UIRequestProc	
9.6		

9.7	kNkMAIDCapability_Children	41
9.8	kNkMAIDCapability_State	
9.9	kNkMAIDCapability_Name	
9.10	kNkMAIDCapability_Description	
9.11	kNkMAIDCapability_Interface	
9.12	kNkMAIDCapability_DataTypes	
9.13	kNkMAIDCapability_DateTime	
9.14	kNkMAIDCapability_StoredBytes	
9.15	kNKMAIDCapability_Eject	
9.16	kNkMAIDCapability_Feed	
9.17	kNkMAIDCapability_Capture	
9.18	kNkMAIDCapability_Mode	
9.19	kNkMAIDCapability_Acquire	43
9.20	kNkMAIDCapability_Start	
9.21	kNkMAIDCapability_Length	
9.22	kNkMAIDCapability_SampleRate	
9.23	kNkMAIDCapability_Stereo	
9.24	kNkMAIDCapability_Samples	
9.25	kNkMAIDCapability_Filter	
9.26	kNkMAIDCapability_Prescan	
9.27	kNkMAIDCapability_AutoFocus	
9.28	kNkMAIDCapability_AutoFocusPt	
9.29	kNkMAIDCapability_Focus	45
9.30	kNkMAIDCapability_Coords	
9.31	kNkMAIDCapability_Resolution	
9.32	kNkMAIDCapability_Preview	45
9.33	kNkMAIDCapability_Negative	
9.34	kNkMAIDCapability_NegativekNkMAIDCapability_ColorSpace	
9.35	kNkMAIDCapability_Edits	
9.36		
9.37	kNkMAIDCapability_PlanarkNkMAIDCapability_Lut	46
9.38 9.38	kNkMAIDCapability_Transparency	
9.39	kNkMAIDCapability_TransparencykNkMAIDCapability_Threshold	
9.40	kNkMAIDCapability_Pixels	
9.40 $9.41$		
9.41 $9.42$	kNkMAIDCapability_ForceScankNkMAIDCapability_ForcePrescan	
9.42 $9.43$		
9.43 9.44	kNkMAIDCapability_ForceAutoFocuskNkMAIDCapability_NegativeDefault	
9.44 9.45		
9.45 $9.46$	kNkMAIDCapability_FirmwarekNkMAIDCapability_CommunicationLevel1	40 48
9.46 $9.47$	kNkMAIDCapability_CommunicationLevel2	40 49
$9.48 \\ 9.49$	kNkMAIDCapability_BatteryLevel	
9.49 9.50	kNkMAIDCapability_FreeByteskNkMAIDCapability_FreeItems	
9.51	kNkMAIDCapability_Remove	
$9.52 \\ 9.53$	kNkMAIDCapability_FlashMode	
	kNkMAIDCapability_ModuleType	
$9.54 \\ 9.55$	kNkMAIDCapability_AcquireStreamStart	
	kNkMAIDCapability_AcquireStreamStop	
9.56	kNkMAIDCapability_AcceptDiskAcquisition	
9.57	kNkMAIDCapability_Version	01
9.58	kNkMAIDCapability_FilmFormat	
9.59	kNkMAIDCapability_TotalBytes	
10 88	松宁苦	
10 関刻		
10.1	MAID エントリポイント関数	
10.2	MAID 完了関数	52
10.3	MAID データ転送関数	52
10.4	MAID イベント通知関数	
10.5	MAID 進行通知関数	
10.6	MAID ユーザインターフェイス要求関数	53
10.0	/ ( T / / -   / -	55
11 変列	<b>重屠呀</b>	53
ユュ タン	<i>√/8/⊔</i> ⊑	<i>0</i> 0

\_ 53

# 1 著者

この日本語訳は参考のためのものであり、正式にはかならず英文のものを使用すること。

# 2 コンセプト

この章では、MAID における考え方を説明する。この章では、強調文字はこのドキュメントを通じて使用される用語の導入を意味している。

#### 2.1 大きな画像

MAID 規約は、イメージ、サウンドもしくはビデオを持つデバイスのためのデバイスドライバとアプリケーション間のインターフェイス層を提供するために作成された。MAID においては、アプリケーション側は**クライアント**として参照され、デバイスドライバ側は**モジュール**として参照される。クライアントは、すべてのユーザインターフェイスを提供し、モジュールはデバイスとの通信のすべてを提供する。

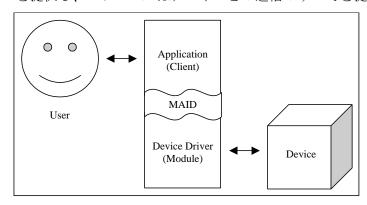


Figure 1

#### 2.2 概要

MAID はデバイスとの通信を層に抽象化する。それぞれの層では、クライアントはモジュールに対してビューを開く。このビューは**オブジェクト**と呼ばれる。これはモジュール自身を意味する。次は**ソース**オブジェクトであり、これは物理的なデバイスを意味する。次は**アイテム**オブジェクトであり、もっとも深いレベルのオブジェクト、すなわち**データ**オブジェクト、の集まりを意味する。データオブジェクトは画像、音もしくはビデオである。アイテム中には、データオブジェクトのそれぞれの型のうちの一種類のみが存在しうる。

このドキュメントを通じて、 "モジュール" はデバイスドライバを指し、 "モジュールオブジェクト" はデバイスドライバの MAID の抽象化されたものとして開かれた通信路を指す。

例えば、モジュールによってサポートされている、2つの使用可能なデバイスがあるとする。1つ目のデバイスは、画像と関連付けられていない音声が内部に保存されている。2つ目のデバイスは、音声を伴った画像と、音声と関連付けられていないビデオが内部に保存されている。クライアントがモジュールオブジェクトと、これらの物理的な対象物のそれぞれに対するオブジェクトを開いたとすると、オブジェクトの階層構造は図2のようになる。

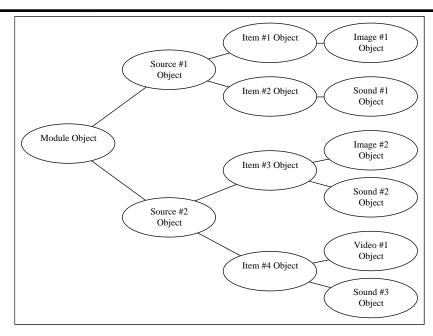


Figure 2

#### 2.3 オブジェクトの寿命

オブジェクトは、クライアントがそれを閉じるまでの間、開かれた状態となる。クライアントはモジュールを解放する前に閉じなければならない。ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトが開かれるときは、**親**オブジェクトが提供されなければならない。開かれるオブジェクトは**子**オブジェクトとなる。**capabilities** として知られる、すべての設定は各自のオブジェクトと関連付けられる。親オブジェクトの **capability** 設定は、すべてのその子オブジェクトに適用される。

通常、オブジェクトが開かれている間は、オブジェクトは **alive** である。クライアントがその親を閉じた場合、 もしくはオブジェクトの物理的な対象物が消滅した場合は、もはや alive でなくなる。この **zombie** 状態でも、 クライアントはオブジェクトに関するいくつかの capabilities を読み込むことができる。どの capabilities が 有効かは、モジュールが親オブジェクトもしくは物理的対象物なしで提供できる情報に依存する。

#### 2.4 2つの視野

オブジェクトは単に物理的な対象物のビューにすぎないため、1つの物理的な対象物に対して1つを超えるオブジェクトを開くことができる。これは、MAID オブジェクト階層構造のそれぞれのレベルにおいて、真実である。例えば、クライアントがソースを2度開いたとすると、両方のソースオブジェクトは、同じ親モジュールオブジェクトを持ち、図3にしめすように同じ物理デバイスに対してアクセスする。

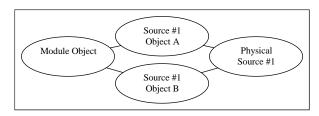


Figure 3

これらのソースオブジェクトのそれぞれは、物理オブジェクトに対する固有の設定を持つ。モジュールは、同時に物理ソースにアクセスを持つソースオブジェクトを、一つに制限する。2つのソースオブジェクトが、重要な capability を矛盾する値に設定した場合、モジュールのみが、もっとも良い方法でこの問題を解決する方法を、決定することができる。

この特徴は、データオブジェクトレベルにおいて最も便利である。画像型のデータにおいて、1つのオブジェクトをプレビュー要求用に使用する一方、他を最終的な要求に使用することができる。他の例としては、スキャナに複数の原点が存在するギャングスキャンがある。例として、クライアントはすべての領域のプレビューオブジェクト、3つの拡大したプレビューオブジェクトおよび3つの最終的なオブジェクトをもつことができる。これらのオブジェクトのそれぞれは、同じ物理的なスキャナから得られる、同じ物理的な画像データを参照している。もしクライアントが7つのオブジェクトを同時に要求した場合には、モジュールは明らかにそれぞれを継承してスキャンする。

# 3 使用法

ここで示す例については、簡単にするため全てのモジュールに対する呼び出しは同期とする。非同期操作に ついては後に述べる。

#### 3.1 モジュールのロード

モジュールのロードの処理はシステムに依存する。

モジュールのロード方法については、添付の Sample Program のファイル、Function.cpp の Load\_Module り 関数を参照のこと。

#### 3.2 モジュールの初期化

クライアントにとっての最初のステップは、モジュールの構造体を持つことである。これは、構造体としての集合、オブジェクト、ヒープからの確保のいずれでもかまわない。注意すべき点は、この例では一度に一つのモジュールしか開くことはできない。これはモジュールの構造体を1個のグローバル変数としているからである。(Line1) 実際のクライアントは一度に一つ以上のモジュールを持つようになる。

クライアントは、refClient メンバを設定することにより、構造体を初期化する。(Line9)次に object として NULL を、data としてモジュール構造体のポインタをセットして、モジュールを呼び出す。(Line12) コマンドが成功すれば、モジュールは開いている。(Line16)

#### 3.3 capability の列挙

一度オブジェクトが開かれると、機能が列挙される。クライアントはオブジェクトの機能の数を得るためにモジュールを呼び出す。(Line10) このコマンドが成功した場合には、クライアントは機能情報を保持するための領域を確保する。(Line16) メモリが正常に確保できた場合には、クライアントは機能情報を引き出すためにモジュールを呼び出す。(Line21) モジュールに対する 2 つの呼び出しの間に機能数が変化した場合

(Line24)、メモリは解放され(Line26)処理が再度実行される。(Line33) コマンドが正常に終了していれば、機能は列挙されている。(Line36)

```
// enumerate the capabilities of an object
BOOL EnumerateMAIDObjectCapabilities(LPMAIDEntryPointProc pMAIDEntryPoint, LPNkMAIDObject pObject,
1
2
3
4
5
         ULONG FAR *pulCapCount, LPNkMAIDCapInfo FAR * ppCapArray )
         LONG nResult;
6
7
8
9
         do
             // call the module to get the size of the capability array
10
11
12
13
             if (nResult == kNkMAIDResult_NoError)
14
                   allocate memory for the array
16
                 *ppCapArray = (LPNkMAIDCapInfo)malloc( *pulCapCount * sizeof( NkMAIDCapInfo ) );
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
                 if (*ppCapArray != NULL)
                     if (nResult == kNkMAIDResult_BufferSize)
                         free( *ppCapArray );
                          *ppCapArray = NULL;
                     }
                 }
30
31
             }
32
33
34
         /// repeat the process if the number of capabilites changed between the two calls to the module
while (nResult == kNkMAIDResult_BufferSize);
         // return TRUE if the capabilities were successfully enumerated
return (nResult == kNkMAIDResult_NoError);
35
36
```

## 3.4 配列 capability の読み込み

配列機能の読み込み処理は、機能情報の読み込みと似ている。クライアントは機能が配列型であり、 $kNkMAIDCommand\_CapGetArray$  および  $kNkMAIDCommand\_CapGet$  コマンドをサポートしていることを確認する (Line54)。クライアントはモジュールに対して配列機能の情報を得るための呼び出しを行う。 (Line62) コマンドが正常に終了した場合には、クライアントは配列データを保持するためのメモリを確保する。(Line68) 確保に成功した場合には、クライアントは配列データを取り出すためにモジュールを呼び出す。 (Line73) 配列データのサイズが、モジュールへの 2 つの呼び出しの間に変更された場合には (Line76)、メモリは解放され (Line78) 再び処理が行われる。 (Line85) コマンドが正常に実行された場合は、配列は読み出されている。 (Line88)

```
// find the capability
BOOL FindMAIDCapability( LPMAIDEntryPointProc pMAIDEntryPoint, LPNkMAIDObject pObject,
1
2
3
             ULONG ulcapid, LPNkMAIDCapinfo pcapinfo )
4 5
             LONG nResult;
             BOOL fret = FALSE;
ULONG ulCapCount;
LPNkMAIDCapInfo lpCapArray;
6
7
8
10
11
                make sure we don't free some memory we didn't allocate
             lpCapArray = NULL;
12
             // this function is in the example for capability enumeration
if (EnumerateMAIDObjectCapabilities( pMAIDEntryPoint, pObject, &ulCapCount, &lpCapArray))
13
14
15
16
17
18
                      make sure we got an array
(1pCapArray != NULL)
19
20
21
22
23
24
25
                        ULONG ulIndex;
                           find the capability
(r (ulIndex=0; ulIndex<ulCapCount; ++ulIndex)
(lpCapArray[ulIndex].ulID == ulCapID)
                                    break;
26
                            did we find it?
                            (ulIndex < ulCapCount)</pre>
27
28
```

```
fRet = TRUE;
*pCapInfo = lpCapArray[ulIndex];
                   }
              }
          }
          // make sure to free memory allocated by EnumerateMAIDObjectCapabilities()
if (lpCapArray != NULL)
             (1pCapArray != NULL)
              free( lpCapArray );
          return fRet;
        // enumerate the capabilities of an object
        BOOL ReadMAIDArrayCapability( LPMAIDEntryPointProc pMAIDEntryPoint, LPNkMAIDObject pObject,
         ULONG ulCapid, LPNkMAIDArray parray )
          LONG nResult;
          NkMAIDCapInfo capInfo;
          // get the capability information
if (!FindMAIDCapability( pMAIDEntryPoint, pObject, ulCapID, &capInfo ))
              return FALSE;
            ^\prime the capability must be an array, and must support the CapGetArray and CapGet commands
         // the capability must be all allay, and must barrelief (capInfo->ulType != kNkMAIDCapType_Array || !(capInfo-> ulOperations & kNkMAIDCapOperation_GetArray) || !(capInfo-> ulOperations & kNkMAIDCapOperation_Get))
              return FALSE:
          do
              if (nResult == kNkMAIDResult_NoError)
                  // allocate memory for the array
pArray->pData = malloc( pArray->ulElements * pArray->wPhysicalBytes );
                   if (pArray->pData != NULL)
                       if (nResult == kNkMAIDResult_BufferSize)
                           free( pArray->pData );
                           pArray->pData = NULL;
                   }
              }
83
84
85
86
          // repeat the process if the array data size changed between the two calls to the module while (nResult == kNkMAIDResult_BufferSize);
         // return TRUE if the array was successfully read
return (nResult == kNkMAIDResult_NoError);
87
```

- 3.5 範囲 capability の使用
- 3.6 capability グループ
- 3.7 ベンダー固有 capability の使用
- 3.8 ソースおよびアイテムのオープン

ソースもしくはアイテムオブジェクトを開く場合、まず最初にクライアントは親として使用するための、それ ぞれ モ ジュ ール も しく は ソース オブ ジェクト を 必 要 と する。 クライア ント は 親 の  $kNkMAIDCapability\_Children$  機能を見つけ出す。 (Line9) クライアントはこの配列機能を読み込み (Line14) 子オブジェクトの ID を選択する。クライアントは refClient メンバを設定することにより、子オブ ジェクトの構造体を初期化する。 (Line47) そして子オブジェクトを開くために構造体へのポインタを渡してモジュールを呼び出す。 (Line50) コマンドが正常に終了した場合には、オブジェクトは開かれている。

(Line55)

例としてあげるために、子が開かれる度ごとに、機能が列挙され子 ID 配列が読み込まれている。実際のクライアントは、クライアントとモジュール間の対話を最小にし動作を高速化するために、これらの両方をキャッシュする。

```
// read the child IDs into an array structure
BOOL GetMAIDChildIDs(LPMAIDEntryPointProc pMAIDEntryPoint, LPNkMAIDObjecet pParentObject,
            LPNkMAIDArray pchildIDArray )
4
          {
5
6
7
            LONG nResult;
            NkMAIDCapInfo capInfo;
8
9
            // this function is in the example for array capabilities
if (!FindMAIDCapability( pMAIDEntryPoint, pParentObject, kNkMAIDCapability_Children,
10
                 &capInfo ))
                  return FALSE;
12
            // this function is in the example for array capabilities
if (ReadMAIDArrayCapability( pMAIDEntryPoint, pParentObject, kNkMAIDCapability_Children,
13
14
15
16
17
                 pchildIDArray ))
                 // the array must be 32 bit unsigned integers
if (pchildIDArray->ulType != kNkMAIDArrayType_Unsigned ||
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
30
31
33
34
35
36
37
38
40
                       pchildIDArray->wPhysicalSize != 4 || pchildIDArray->wLogicalBits != 32)
           }
            return TRUE;
             open child object
          BOOL OpenMAIDChild( LPMAIDEntryPointProc pMAIDEntryPoint, LPNkMAIDObject pParentObject,
            ULONG ulChildIndex, NKREF refChild, LPNkMAIDObject pChildObject )
            LONG nResult;
BOOL fRet = FALSE;
            NkMAIDArray childÍDArray;
               make sure we don't free some memory we didn't allocate
            childIDArray.pData = NULL;
            // get array of child IDs
if (GetMAIDChildIDs( pMAIDEntryPoint, pParentObject, &childIDArray ))
                    ulChildIndex must be a valid index
                  // ulchildindex must be a vallu index
if (childiDArray.ulElements > ulChildindex && childiDArray.pData != NULL)
41
// get the ID of the child from the array
ULONG FAR *pulchildID = (ULONG FAR *)childIDArray.pData;
                       // set the reference
pChildobject->refClient = refChild;
                       // tell the module to open the child
                       nResult = (*pMAIDEntryPoint)( pParentObject, kNkMAIDCommand_Open,
    pulChildID[ulChildindex], kNkMAIDDataType_ObjectPtr,
                            (NKPARAM)pChildObject, NULL, 0);
                       // return TRUE if the child was successfully opened
fRet = (nResult == kNkMAIDResult_NoError);
                 }
            }
            // make sure to free memory allocated by ReadMAIDArrayCapability()
if (childIDArray.pData != NULL)
    free( childIDArray.pData );
61
62
            return fRet;
```

#### 3.9 データオブジェクトを開く

データオブジェクトを開くためには、クライアントは親として使用するアイテムオブジェクトを最初に必要とする。クライアントは利用できるデータ型をアイテムから得て(Line15)、必要とするデータ型が有効かどうかを調べる (Line15)。クライアントは refClient メンバを設定することによりデータオブジェクト構造体を初期化する。(Line18) そしてクライアントは、データオブジェクトを開くためにデータオブジェクト構造体へのポインタを引数にして、モジュールを呼び出す (Line21)。コマンドが正常に終了されれば、オブジェクトは開かれていることになる。(Line25)

// open data object
DOOL OpenMAIDDataObject( LPMAIDEntryPointProc pMAIDEntryPoint, LPNkMAIDObject pItemObject,
ULONG ulDataObjectType, NKREF refChild, LPNkMAIDObject pDataObject )

```
LONG nResult;
BOOL fRet = FALSE;
5
6
7
8
9
           ULONG ulDataTypes;
           10
11
12
13
14
15
16
17
           // make sure we got an answer and that the data type requested is available
if (nResult == kNkMAIDResult_NoError && (ulDataTypes & ulDataObjectType) != 0)
                   set the reference
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
                pDataObject->refClient = refChild;
                // tell the module to open the data object
nResult = (*pMAIDEntryPoint)( pItemObject, kNkMAIDCommand_Open,
                     ulDataObjectType, kNkMAIDDataType_ObjectPtr, (NKPARAM)pDataObject, NULL, 0 );
                // return TRUE if the child was successfully opened
fRet = (nResult == kNkMAIDResult_NoError);
28
           return fRet;
29
```

## 3.10 データ転送

どのようにして行うかを以下に示す。

```
'acquire a data object
2 3
       BOOL AcquireMAIDDataObject( LPMAIDEntryPointProc pMAIDEntryPoint, LPNkMAIDObject pDataObject, LPVOID FAR *ppData )
45
        LONG nResult;
BOOL fRet = FALSE;
6
7
8
9
        ULONG ulDataSize;
        NkMAIDCallback cbDataProc;
10
11
        // find out how large the data will be - this is different for images, sound and video
\overline{12}
13
14
         if (nResult == kNkMAIDResult_NoError)
15
16
             // allocate the memory we need
17892012234522223333333333344423
             *ppData = malloc( ulDataSize );
            if (*ppData != NULL)
                  / make sure the data deliviery callback function gets a pointer to the memory
                cbDataProc.pProc = (LPNKFUNC)ReceiveMAIDData;
cbDataProc.ref = (NKREF)*ppData;
                if (nResult == kNkMAIDResult_NoError)
                    return TRUE if the acquire was successfully completed
                    fRet = (nResult == kNkMAIDResult_NoError);
                }
            }
        }
        return fRet;
44
         opy the delivered data /
46
47
48
49
50
51
52
       LONG ReceiveMAIDData( LPNkMAIDObject pObject, NKREF ref, LPVOID pDataInfo, LPVOID pData )
                                           // reference value in callback structure
        LPVOID pBuffer = (LPVOID)ref;
           interpret the structure pointed to by pDataInfo and copy the
         // data in pData to a client allocated buffer
53
54
55
        return kNkMAIDResult_NoError;
```

## 3.11 状態の保存と読み込み

それぞれのモジュール、ソース、アイテムおよびデータオブジェクトは、それぞれの固有の状態を持つことができる。

オブジェクトの現在の状態を得るには、配列性能の *kNkMAIDCapability\_State* を読むだけで良い。この性能から取り出されるデータは、 逐語的に保存されるのが望ましい。オブジェクトの状態を読み出すには、クライアントはオブジェクトから以前に読み込んだデータと共に、配列性能に *kNkMAIDCapability\_State* をセットするだけで良い。

```
/ get the object state
         BOOL GetMAIDODjectState( LPMAIDEntryPointProc pMAIDEntryPoint, LPNkMAIDObject pObject,
3
           LPNkMAIDArray pStateArray )
           LONG nResult;
5
6
7
           NkMAIDCapInfo capInfo;
8
9
           // this function is in the example for array capabilities
if (!FindMAIDCapability( pMAIDEntryPoint, pParentObject, kNkMAIDCapability_State,
10
11
                return FALSE;
12
13
14
15
             this function is in the example for array capabilities
(ReadMAIDArrayCapability( pMAIDEntryPoint, pParentObject, kNkMAIDCapability_State,
               pStateArray ))
16
17
18
19
20
21
22
22
24
22
26
27
28
29
31
33
33
33
33
33
40
               // the array must be 32 bit unsigned integers
if (pStateArray->ulType != kNkMAIDArrayType_Unsigned ||
                    pStateArray->wPhysicalSize != 1 || pStateArray->wLogicalBits != 8)
          }
           return TRUE;
           Set the object state
         BOOL SetMAIDObjectState( LPMAIDEntryPointProc pMAIDEntryPoint, LPNkMAIDObject pObject,
           LPNkMAIDArray pStateArray )
           LONG nResult:
          NkMAIDCapInfo capInfo;
           // this function is in the example for array capabilities
if (!FindMAIDCapability( pMAIDEntryPoint, pParentObject, kNkMAIDCapability_State,
               &capInfo ))
                return FALSE;
          41
42
43
44
           return (nResult == kNkMAIDResult_NoError);
```

## 3.12 イベントの通知

## 3.13 ユーザインターフェイスの要求

#### 3.14 非同期によるモジュールの呼び出し

例として、オブジェクトを閉じるときを考える。クライアントは完了関数へのポインタを引数として、モジュールを呼び出す。(Line39)モジュールがコマンドを非同期で実行できる場合には、モジュールはすぐに kNkMAIDResult\_Pending の戻り値を返す。この例では、クライアントはコマンドが正常に終了するのを待っため、kNkMAIDCommand\_Async のコマンドでモジュールを繰り返し呼び出している。クライアントは、優先度を与えるために、このコマンドを直接オブジェクトに指示したり(Line20)、モジュールに対して何を行うべきか決定させることができる。(Line26)クライアントは完了コールバック関数によって設定される戻り値を確認する(Line10)。(Line50)モジュールがコマンドを同期として処理する場合、モジュールは完了関数を戻る前に呼び出し、終了待ちのループ(Line10-27)は実行されない。コマンドが正常に終了した場合に

は、オブジェクトは閉じられる。

```
1
        BOOL CloseMAIDObject( LPMAIDEntryPointProc pMAIDEntryPoint, LPNkMAIDObject pObject )
         LONG nResult;
// call the module asynchronously
             (CallMAIDAsync(pMAIDEntryPoint, pObject, kNkMAIDCommand_Close, 0, kNkMAIDDataType_NULL, 0,
              &nResult ))
              // loop while processing the command
while (nResult == kNkMAIDResult_Pending)
                  // respond to user interface items or perform other non-MAID operations // \dots
                  // give a single threaded module a chance to call the callback - the client can
// direct the async command at an object or let the module choose what object
// it should be directed to
                   // direct the module to process asynchronous commands only for this object
                  (*pMAIDEntryPoint)( pObject, kNkMAIDCommand_Async, 0, kNkMAIDDataType_Null, 0,
                      NULL, 0);
                  // .. OR ..
                   // let the module process asynchronous commands for any object
                  (*pMAIDEntryPoint)( NULL, kNkMAIDCommand_Async, 0, kNkMAIDĎataType_Null, 0, NULL, 0 );
             }
         // return TRUE if the object was closed
return (nResult == kNkMAIDResult_NoError);
        41
42
43
44
45
46
47
         // return TRUE if the command was started
return (nResult == kNkMAIDResult_NoError || nResult == kNkMAIDResult_Pending);
        // save the result of the command in the reference
void SetMAIDResult( LPMAIDObject pobject, ULONG ulCommand, ULONG ulParam, ULONG ulDataType,
    NKPARAM data, NKREF refComplete, LONG nResult )
48
         *((LONG FAR *)refComplete) = nResult;
```

## 3.15 モジュールの終了

モジュールを終了させる場合には、クライアントはすべてのオブジェクトを閉じる。それぞれのオブジェクトを閉じる際に、モジュールは処理中のすべてのコマンドを中断し、コールバックが存在する場合には、ulDone を ulTotal として処理コールバックを呼び出す。そして完了関数を呼び出し、 NkMAIDObject 構造体の refModule メンバを NULL に設定する。これによりオブジェクトはクライアントに間違いによって使用されることがなくなる。

## 3.16 モジュールの解放

モジュールの解放処理はシステムに依存する。

モジュールの解放処理については、添付の Sample Program のファイル、main.cpp の Unload Module の処理を参照のこと。

# 4 一覧表

#### 4.1 戻り値

```
enum eNkMAIDResult
          / these values are errors
         kNkMAIDResult\_NotSupported = -127,
         kNkMAIDResult_UnexpectedDataType,
         kNkMAIDResult_ValueOutOfBounds,
        kNkMAIDResult_BufferSize,
kNkMAIDResult_Aborted,
         kNkMAIDResult_NoMedia,
         kNkMAIDResult_NoEventProc,
         kNkMAIDResult_NoDataProc,
         kNkMAIDResult_ZombieObject,
kNkMAIDResult_OutOfMemory
         kNkMAIDResult_UnexpectedError,
         kNkMAIDResult_HardwareError
         kNkMAIDResult_MissingComponent,
         kNkMAIDResult_NoError = 0,
         // these values are warnings
         kNkMAIDResult_Pending
         kNkMAIDResult_OrphanedChildren,
         kNkMAIDResult_VendorBase = +127
};
```

モジュールは、クライアントの完了コールバック関数の nResult パラメータへこれらの値のうちの一つを渡す。もしくは MAID Entry Point の戻り値として同じ値を返す。エラーは負の値を持つ。

## 4.2 データオブジェクト型

モジュールは、モジュールもしくはソースが作成できるデータ型を示すために、一つ以上の値を使用する。 また特定のアイテムについてどのデータ型が使用できるかを示すためにも使用する。詳細については kNkMAIDCapability DataTypes の記述を参照のこと

#### 4.3 データ型

```
enum eNkMAIDDataType
            knkmaidDataType_null = 0,
                                                                      // passed by value, set only
// signed 32 bit int, passed by value, set only
// unsigned 32 bit int, passed by value, set only
            kNkMAIDDataType_Boolean,
           kNkMAIDDataType_Integer, kNkMAIDDataType_Unsigned
                                                                       // pointer to single byte boolean value(s)
            kNkMAIDDataType_BooleanPtr,
                                                                      // pointer to signed 4 byte value(s)
// pointer to unsigned 4 byte value(s)
            kNkMAIDDataType_IntegerPtr, kNkMAIDDataType_UnsignedPtr,
                                                                      // pointer to DOUB_P value(s)
// pointer to NkMAIDPoint structure(s)
            kNkMAIDDataType_FloatPtr,
            kNkMAIDDataType_PointPtr,
            kNkMAIDDataType_SizePtr,
                                                                       // pointer to NkMAIDSize structure(s)
            kNkMAIDDataType_RectPtr,
kNkMAIDDataType_StringPtr
                                                                         pointer to NkMAIDRect structure(s)
pointer to NkMAIDString structure(s)
                                                                      // pointer to NKMAIDString Structure(s)
// pointer to NkMAIDDateTime structure(s)
// pointer to NkMAIDRange structure(s)
            kNkMAIDDataType_DateTimePtr,
            kNkMAIDDataType_CallbackPtr,
            kNkMAIDDataType_RangePtr,
            kNkMAIDDataType_ArrayPtr,
kNkMAIDDataType_EnumPtr,
                                                                      // pointer to NkMAIDArray structure(s)
// pointer to NkMAIDEnum structure(s)
                                                                          pointer to NkMAIDObject structure(s)
            kNkMAIDDataType_ObjectPtr
            kNkMAIDDataType_CapInfoPtr,
                                                                           pointer to NkMAIDCapInfo structure(s)
            kNkMAIDDataType_GenericPtr
                                                                      // pointer to some value
};
```

クライアントは MAID entry point の ulDataType パラメータにこれらの値のうちの一つを渡す。これはデータパラメータがモジュールによって、どのように解釈されるべきかを示す。

## 4.4 配列型

```
enum eNkMAIDArrayType
         kNkMAIDArrayType\_Boolean = 0,
                                                       // 1 byte per element
                                              // signed value that is 1, 2 or 4 bytes per element
// unsigned value that is 1, 2 or 4 bytes per element
         kNkMAIDArrayType_Integer
         kNkMAIDArrayType_Unsigned,
                                                       // DOUB_P elements
// NkMAIDPoint structures
         kNkMAIDArrayType_Float,
         kNkMAIDArrayType_Point,
         kNkMAIDArrayType_Size,
                                                       // NkMAIDSize structures
         kNkMAIDArrauType_Rect,
                                                       // NkMAIDRect structures
                                                       /// packed array of strings
         kNkMAIDArrayType_PackedString,
                                                          NkMAIDString structures
         kNkMAIDArrayType_String,
                                                       // NkMAIDDateTime structures
         kNkMAIDArrayType_DateTime
};
```

モジュールは NkMAIDArray 構造体の ulType メンバにこれらの値のうちの一つを設定する。これは配列の データがどのように解釈されるべきかを示す。詳細については NkMAIDArray 構造体を参照のこと。

#### 4.5 機能型

```
enum eNkMAIDCapType
                                                // a process that can be started
// single byte boolean value
         kNkMAIDCapType\_Process = 0,
         kNkMAIDCapType_Boolean,
                                                 // signed 4 byte value
// unsigned 4 byte value
         kNkMAIDCapType_Integer,
kNkMAIDCapType_Unsigned,
                                                 // DOUB_P value
// NkMAIDPoint structure
         kNkMAIDCapType_Float,
          kNkMAIDCapType_Point,
         kNkMAIDCapType_Size,
                                                 // NkMAIDSize structure
         kNkMAIDCapType_Rect,
kNkMAIDCapType_String,
                                                 // NkMAIDRect structure
                                                 // NkMAIDString structure
         kNkMAIDCapType_DateTime,
                                                 // NkMAIDDateTime structure
          kNkMAIDCapType_Callback,
                                                 // NkMAIDCallback structure
         kNkMAIDCapType_Array,
                                                 // NkMAIDArray structure
         kNkMAIDCapType_Enum,
                                                 // NkMAIDEnum structure
                                                 // NkMAIDRange structure
         kNkMAIDCapType_Range
                                                // generic pointer
// NkMAIDBooleanDefault structure
         kNkMAIDCapType_Generic
         kNkMAIDCapType_BoolDefault,
};
```

モジュールは NkMAIDCapInfo 構造体の ulType メンバにこれらの値のうちの一つをセットする。これはどのような型の情報が提供されているかを示す。詳細については、機能の章もしくは NkMAIDCapInfo 構造体

の記述を参照すること。

#### 4.6 機能操作

モジュールは NkMAIDCapInfo 構造体の ulOperations メンバにこれらの値の 1 つ以上をセットする。これは特定の機能において、どの動作が許可されているのかを示す。詳細については機能の章と NkMAIDCapInfo 構造体の記述を参照のこと。

#### 4.7 機能の可視性

モジュールは NkMAIDCapInfo 構造体の ulVisibility メンバにこれらの値の 1 つ以上をセットする。これは特定の機能がどのレベルの可視性を持つかを示す。詳細については、機能の章と NkMAIDCapInfo 構造体の記述を参照のこと。

#### 4.8 オブジェクト型

モジュールは NkMAIDObject 構造体の ulType メンバにこれらの値のうちの一つをセットする。これはどの型のオブジェクトが提供されているかを示す。

#### 4.9 イベント

モジュールは、どのイベントが発生したのかを示すために、クライアントのイベントコールバック関数の ulEvent パラメータに、これらの値のうちの一つを渡す。

## 4.10 ユーザインターフェイス要求型

モジュールがクライアントのユーザインターフェイスコールバック関数を呼び出すときには、 NkMAIDUIRequetInfo 構造体の ulType メンバに、これらの値のうちの一つがセットされる。ユーザには値 によって特定された選択が提示される。

## 4.11 ユーザインターフェイス値

モジュールがクライアントのユーザインターフェイスコールバック関数を呼ぶときに、NkMAIDUIRequestInfo 構造体の ulDefault メンバはこれらの値のうちの一つにセットされる。この値は、デフォルトでどのボタンがハイライト表示されるべきかを示す。クライアントのユーザインターフェイスコールバック関数は、ユーザの押したボタンに関連した、これらの値のうちの一つを返す。 $kNkMAIDEventResult\_None$  値は、NkMAIDUIRequestInfo 構造体の fSync メンバが FALSE の場合のみとりうる値である。

#### 4.12 フィルタ

モジュールは kNkMAIDCapability\_Filter 機能において、これらの値の一つ以上を使用する。詳細については、機能の章を参照のこと。

#### 4.13 コマンド

```
enum eNkMAIDCommand
                                                                                            // process asynchronous operations
// opens a child object
                  kNkMAIDCommand_Async,
                  kNkMAIDCommand_Open,
                                                                                           // opens a child object
// closes a previously opened object
// get number of capabilities of an object
// get capabilities of an object
// starts capability
// set value of capability
// get value of capability
// get default value of capability
// get data for array capability
// insert mark in the command queue
// abort asynchronous command
// abort current asynchronous command
                  kNkMAIDCommand_Close,
                  kNkMAIDCommand_GetCapCount,
                  kNkMAIDCommand_GetCapInfo,
                  kNkMAIDCommand_CapStart,
kNkMAIDCommand_CapSet,
                  kNkMAIDCommand_CapGet,
kNkMAIDCommand_CapGetDefault,
kNkMAIDCommand_CapGetArray
                  kNkMAIDCommand_Mark,
kNkMAIDCommand_AbortToMark,
                                                                                           // abort current asynchronous command
// requests 'add' events for all child IDs
// gets previously opened parent for object
                  kNkMAIDCommand_Abort,
                  kNkMAIDCommand_EnumChildren,
                  kNkMAIDCommand_GetParent
};
```

クライアントは、MAID entry point に対する ulCommand パラメータにこれらの値のうちの一つを渡す。これはモジュールがどのような操作を行うべきかを示す。これらのコマンドについては、コマンドの章で詳細に述べる。

#### 4.14 Capabilities

```
enum eNkMAIDCapability
              // milliseconds between idle async calls
                                                                                       // callback to show user interface
                                                                        // FALSE if object is removed or parent closed
// IDs of children objects
// current state of the object
// a string representing the name of the object
// a string describing the object
// a string describing the interface to a device
// what data types are supported or available
              kNkMAIDCapability_IsAlive,
              kNkMAIDCapability_Children, kNkMAIDCapability_State,
              kNkMAIDCapability_Name,
              kNkMAIDCapability_Description, kNkMAIDCapability_Interface,
                                                                        // what data types are supported or available
// date associated with an object
// read only size of object as stored on device
              kNkMAIDCapability_DataTypes,
              kNkMAIDCapability_DateTime,
              kNkMAIDCapability_StoredBytes,
              // mode of this object
// begins the acquisition of the object
// If FALSE, unneccesary scans can be eliminated
              kNkMAIDCapability_Mode
              kNkMAIDCapability_Acquire,
              kNkMAIDCapability_ForceScan,
              kNkMAIDCapability_Start, kNkMAIDCapability_Length,
                                                                         // start offset (in seconds) of the object
// length (in seconds) of the object
                                                                        // sampling rate (in samples/sec) of the object
// mono or stereo
// given current state, read only number of samples
              kNkMAIDCapability_SampleRate,
              kNkMAIDCapability_Stereo,
              kNkMAIDCapability_Samples,
              kNkMAIDCapability_Filter, // selects the filter for the light source kNkMAIDCapability_Prescan, // performs a prescan kNkMAIDCapability_ForcePrescan,// If FALSE, unneccesary prescans can be eliminated kNkMAIDCapability_AutoFocus, // sets the focus automatically kNkMAIDCapability_ForceAutoFocus,// If FALSE, unneccesary autofocus can be eliminated kNkMAIDCapability_AutoFocusPt, // sets the position to focus upon kNkMAIDCapability_Focus // sets the focus
                                                                         // sets the focus
              kNkMAIDCapability_Focus,
                                                                        // sets the rocus
// rectangle of object in device units
// resolution of object (in pixels/inch)
// preview or final acquire
// negative or positive original
// colorspace for image delivery
// bits per color
// interleaved or planar data transfer
// LUT(s) for object
              kNkMAIDCapability_Coords
              kNkMAIDCapability_Resolution,
              kNkMAIDCapability_Preview,
kNkMAIDCapability_Negative
              kNkMAIDCapability_Colorspace, kNkMAIDCapability_Bits, kNkMAIDCapability_Planar,
              kNkMAIDCapability_Lut, // LUT(s) for object kNkMAIDCapability_Transparency,// light path of the original kNkMAIDCapability_Threshold, // threshold level for lineart images
              kNkMAIDCapability_Pixels,
                                                                         // given current state, read only size of image
              kNkMAIDCapability_NegativeDefault,// Default value for Negative capbility kNkMAIDCapability_Firmware, // Firmware version number
              kNkMAIDCapability_CommunicationLevel1, // Communication method kNkMAIDCapability_CommunicationLevel2, // Communication method kNkMAIDCapability_BatteryLevel, // Battery Level in dev
                                                                                       // Battery Level in device
// Free bytes in device
              kNkMAIDCapability_FreeBytes,
              kNkMAIDCapability_FreeItems,
                                                                                       // Free items in device
              kNkMAIDCapability_Remove,
kNkMAIDCapability_FlashMode,
kNkMAIDCapability_ModuleType,
                                                                                                      // Delete an object
                                                                                        // Flash mode
                                                                                       // Module type
// Start a stream acquisition
              kNkMAIDCapability_AcquireStreamStart,
              kNkMAIDCapability_AcquireStreamStop, // Stop a stream acquisition kNkMAIDCapability_AcceptDiskAcquisition,// Allow acquisitions to use disk transfer kNkMAIDCapability_Version, // MAID version
                                                                                       // Film format (35mm, 6x6 etc)
// Total bytes in device storage
              kNkMAIDCapability_FilmFormat,
              kNkMAIDCapability_TotalBytes,
              kNkMAIDCapability_VendorBase = 0x8000
                                                                                      // vendor supplied capabilities start here
              };
```

モジュールは NkMAIDCapInfo 構造体の ulID メンバにこれらの値を使用する。これはどのような機能がクライアントに対して提供されるかを示す。クライアントは MAID entry point の ulParam パラメータへこれらの値のうちの一つを渡す。この値はコマンド上でどのような機能が処理されるかを示す。

モジュール製作者は、デバイス固有の機能を定義することができる。クライアントはユーザに対して一般的な規則のもとで、これらの機能と相互作用することを可能にする。

これらの機能については、機能の章で詳細に述べる。

## 4.15 色空間

```
enum eNkMAIDColorSpace
        kNkMAIDColorSpace_LineArt,
        kNkMAIDColorSpace_Grey,
        kNkMAIDColorSpace_RGB
        kNkMAIDColorSpace_sRGB
        kNkMAIDColorSpace_CMYK,
        knkmaIDColorSpace_Lab,
        kNkMAIDColorSpace_LCH
        kNkMAIDColorSpace_AppleRGB, kNkMAIDColorSpace_ColorMatchRGB,
        kNkMAIDColorSpace_NTSCRGB,
        kNkMAIDColorSpace_BruceRGB
        kNkMAIDColorSpace_AdobeRGB,
        kNkMAIDColorSpace_CIERGB
        kNkMAIDColorSpace_AdobewideRGB,
        kNkMAIDColorSpace_AppleRGB_Compensated,
        kNkMAIDColorSpace_VendorBase = 0x8000 // vendor supplied color spaces start here
};
クライアントは、これらの値を kNkMAIDCapability_ColorSpace Capability で使用する。 詳細については、
Capability の章を参照のこと。
```

#### 4.16 Boolean Default

クライアントは、これらの値を kNkMAIDCapability\_NegativeDefault Capability で使用する。詳細については、Capability の章を参照のこと。

## 4.17 Module Types

モジュールは、*kNkCapability\_ModuleType* の Get コマンドに対し data にこれらのうち一つ以上をセットして返す。これはクライアントが、このモジュールを使用するか、あるいはユーザーインターフェースを表示するかを判断する助けになる。

## 4.18 File Data Types

モジュールは、kNkMAIDCapability\_Acquire を受けファイルデータをクライアントに転送する時、何れかの値を NkMAIDFileInfo 構造体の ulFileDataType メンバにセットする。

#### 4.19 Flash Modes

クライアントは、これらの値を kNkMAIDCapability\_FlashMode Capability で使用する。詳細については、Capability の章を参照のこと。

# 5 構造体と型

#### 5.1 Word 値

typdef unsigned short WORD;

この定義は、16bit の符号無し整数に相当する値の必要性によって記述される。

#### 5.2 Unsigned Long 値

typdef unsigned long ULONG;

この定義は、32bit の符号無し整数に相当する値の必要性によって記述される。

#### 5.3 パラメータ値

typdef ULONG NKPARAM;

この定義は、オブジェクトへのポインタもしくは32bit整数に相当する値の必要性によって記述される。

#### 5.4 ポインタ値

typdef void FAR \*LPVOID;

この定義は、オブジェクトへのポインタに相当する値の必要性によって記述される。

#### 5.5 参照値

typedef LPVOID NKREF;

この定義は、オブジェクトへのポインタに相当する値の必要性によって記述される。この型は、MAID クライアントが構造体と、他の構造体もしくはオブジェクトとを関連付ける必要があるときに使用される。またコールバック関数においても使用される。

## 5.6 MAID Entry Point 関数ポインタ

typedef LONG (FAR \*LPMAIDEntryPointProc)( LPNkMAIDObject, ULONG, ULONG, ULONG, NKPARAM, LPMAIDCompletionProc, NKREF );

#### **5.7 MAID 完了関数ポインタ**

typedef void (FAR \*LPMAIDCompletionProc)(LPNkMAIDObject, ULONG, ULONG, ULONG, NKPARAM, NKREF, LONG);

#### 5.8 MAID データ引き渡し関数ポインタ値

```
typedef LONG (FAR *LPMAIDDataProc)( NKREF, LPVOID, LPVOID );
```

#### 5.9 MAID イベント通知関数ポインタ

```
typedef void (FAR *LPMAIDEventProc)( NKREF, ULONG, NKPARAM );
```

#### 5.10 MAID 処理通知関数ポインタ

```
typedef void (FAR *LPMAIDProgressProc)( ULONG, ULONG, NKREF, ULONG, ULONG );
```

## 5.11 MAID ユーザインターフェイス要求関数ポインタ

```
typedef ULONG (FAR *LPMAIDUIRequestProc)( NKREF, LPNkMAIDUIRequestInfo );
```

#### 5.12 コールバック定義構造体

この構造体は、コールバック関数を記述するのに使用される。pProc メンバは関数へのポインタで、refProc メンバはそれぞれの目的のために、コールバックで使用される。通常、refProc メンバはオブジェクトもしくは構造体へのポインタとして MAID クライアントによって使用される。

#### 5.13 Date/Time 構造体

```
typedef struct tagNkMAIDDateTime
        WORD nyear;
                                 // ie 1997, 1998
        WORD nMonth;
                                    0-11 = Jan-Dec
        WORD nDay;
                                    1-31
                                    0 - 23
        WORD nHour
                                 // 0-59
        WORD nMinute:
                                 // 0-59
        WORD nSecond;
        ULONG nSubsecond;
                                 // Module dependent
} NkMAIDDateTime, FAR* LPNkMAIDDateTime;
```

個々のモジュールは、nSubsecond メンバをどのように解釈するかを決定することができる。例えば、同一秒内にいくつかの写真が撮影された場合、0から始まる連続値を割り当てることができる。あるいはミリ秒として使用することもできる。

#### 5.14 ポイント構造体

#### 5.15 Size 構造体

## 5.16 矩形構造体

```
typedef struct tagNkMAIDRect
{
    LONG x; // left coordinate
    LONG y; // top coordinate
    ULONG w; // width
    ULONG h; // height
} NkMAIDRect, FAR* LPNkMAIDRect;
```

#### 5.17 文字列構造体

```
typedef struct tagNkMAIDString
{
          SCHAR str[256]; // allows a 255 character null terminated string
} NkMAIDString, FAR* LPNkMAIDString;
```

文字列は NULL で終端されていなければならない。この構造体を使用するにあたって、転送可能な文字列の最大の長さは 255 文字である。長い文字列については、ulType メンバに kNkMAIDArrayType\_PackedStringをセットしての NkMAIDArray 構造体の使用を検討すること。

#### 5.18 配列構造体

```
typedef struct tagNkMAIDArray
                                                      one of eNkMAIDArrayType
                          ulType;
        UI ONG
        ULONG
                          ulElements;
                                                       total number of elements
                                                      size of first dimension
size of second dimension, zero for 1 dim
                          ulDimSize1;
        ULONG
        ULONG
                          ulDimSize2;
        ULONG
                                                       size of third dimension, zero for 1 or 2 dim
                          ulDimSize3;
        WORD
                          wPhysicalBytes;
                                                       bytes per element
        WORD
                          wLogicalBits;
                                                       must be <= wPhysicalBytes * 8
                                                       allocated by the client
        LPVOID
                          pData;
} NkMAIDArray, FAR* LPNkMAIDArray;
```

NkMAIDArray 構造体は MAID インターフェイスを通じて配列を転送できるようにする。クライアントは常にメモリを確保する。データを適切に取り扱うのは、データの受け手側の責任となる。バイト指定による pData のサイズは、常に ul Elements の wPhysical Bytes 倍と等しくなければならない。

2もしくは3次元の配列が、ulDimSize1、ulDimSize2 および ulDimSize3 をセットするとことにより転送されうる。各要素が10個の20列の2次元配列については、ulDimSize1が10、ulDimSize2が20、ulElementsが200となる。もしこのような配列が5つあるとしたら、ulDimSize1が10、ulDimSize2が20、ulDimSize3が5で、ulElementsが1000となる。

ulType が *kNkMAIDArrayType\_Intege*r もしくは *kNkMAIDArrayType\_Unsigned* のときは、送り側は次のことを指定している。pData における整数値は、それぞれ 2 バイト(wPhysicalBytes)であるが、受け側は、これらを 10bit 値(wLogicalBits)として解釈しなければならない。

ulType が *kNkMAIDArrayType\_PackedString* の場合には、pData は NULL で終端された文字列の一塊の リストへのポインタである。ulElements は終端文字 NULL のバイトを含んだデータの合計バイト長である。 ulDimSize1 は文字列の数を示す。ulDimSize2 は 0 で、wPhysicalBytes は 1 となる。

## 5.19 範囲構造体

```
typedef struct tagNkMAIDRange
        DOUB_P
                         lfvalue;
                         lfpefault:
        DOUB P
                         ulvalueIndex;
                                                  // zero-based index
        UI ONG
                                                  // zero-based index
        ULONG
                         ulDefaultIndex;
        DOUB_P
                         lfLower:
                         lfUpper;
        DOUB_P
                         ulSteps;
                                          // zero for infinite range, otherwise must be >= 2
        UI ONG
} NkMAIDRange, FAR* LPNkMAIDRange;
```

この構造体は、値の数的な範囲 $(0-100, -5.0 \sim +5.0 \text{ など})$ により機能を実現するためのものである。最小値と最大値は、それぞれ lfLower および lfUpper に入れられる。

lfLower から lfUpper までのすべての値が使用できる場合、lfValue は現在の値、lfDefault はデフォルト値、ulSteps は 0 となる。この場合、ulValueIndex および ulDefaultIndex は使用されない。

不連続な段階的な値しか使用できない場合、ulValueIndex は現在の段階のインデックス、ulDefaultIndex はデフォルトの段階のインデックス、ulSteps は最小値と最大値を含む等間隔に分割されたステップの数を示す。すくなくとも 2つの異なった段階が存在しなければならない。この場合、lfValue 2と lfDefault は使用されない。

範囲の値の設定には2つの方法がある。クライアントは lfValue もしくは ulValueIndex に新しい値をいれた NkMAIDRange 構造体へのポインタを送ることができる。不連続な段階的な値の範囲については、クライア ントは、モジュールが値のインデックスとして受け取ることになっている符号無し整数を送ることができる。 この場合、0 が最小値となり、ulSteps-1 が最大値となる。

## 5.20 機能情報構造体

```
typedef struct tagNkMAIDCapInfo
                                         // one of eNkMAIDCapability or vendor specified
        ULONG
                ulID;
                                         // one of eNkMAIDCababilityType
        ULONG
                ulType;
        ULONG
                ulvisibility;
                                           eNkMAIDCapVisiblity bits
        ULONG
                uloperations;
                                         // eNkMAIDCapOperations bits
                szDescription[256]:
                                           text describing the capability
        SCHAR
} NkMAIDCapInfo, FAR* LPNkMAIDCapInfo;
```

モジュール、ソース、アイテム、イメージおよび音声のオブジェクトは、それぞれの固有の機能を持つ。これらの構造体の配列をとりだすには、 *kNkMAIDCommand\_GetCapInfo* を使用する。それぞれは、ulID にユニークな識別値を持っている。ID は、eNkMAIDCapability のうちの一つもしくはベンダー特有の値をとることができる。

#### 5.21 オブジェクト構造体

この構造体は、MAID クライアントとモジュール間で渡される、モジュール、ソース、アイテム、イメージおよび音声のオブジェクトを表すことができる。

オブジェクトを開くには、クライアントは必要とされるメモリを確保し、それが必要としているすべてを refClient に設定する。次にクライアントは、オブジェクトを開くようにモジュールを呼び出す。呼び出しに おいて、モジュールは ulType を適当な値に、ulID をオブジェクトの ID に、refModule に必要とされるすべ

ての値を設定する。オブジェクトが開かれている間は、refClient および refModule の値は変化しない。

モジュール、ソース、アイテム、イメージもしくは音声が2回目に開かれたときには、モジュールは新しいオブジェクトに対する2つ目の機能値を保持する。モジュールは、refModule メンバの値により、最初のインスタンスと2度目のインスタンスを区別することができる。クライアントはrefClientメンバによって2つを区別することができる。

## 5.22 ユーザインターフェイス要求構造体

```
typedef struct tagNkMAIDUIRequestInfo
                                       ulType; // one of eNkMAIDUIRequestType
         ULONG
                                                             / default value - one of eNkMAIDUIRequestResult
/ TRUE if user must respond before returning
                                       ulDéfault;
         ULONG
         BOOL
                                       fSync;
                                                             NULL terminated text to show to user
NULL terminated text indicating more detail
         char FAR *
                                       1pPrompt;
                                       lpDetail;
                                                    Target Object for data element
         LPNkMAIDObject pObject;
         NKPARAM
                             data;
                                                 // Pointer to an NkMAIDArray structure
} NkMAIDUIRequestInfo, FAR* LPNkMAIDUIRequestInfo;
```

モジュールが、ユーザに対してなんらかの通知を行う場合、もしくはユーザからの入力を要求する場合、pUIRequest をこの構造体へのポインタに設定して、クライアントのユーザインターフェイス関数を呼び出す。 ulType メンバは、ユーザに対してどのボタンを有効にするかを示す。 ulDefault メンバは、どのボタンが初期状態でハイライト表示になるかを示す。 もし fSync メンバが TRUE ならば、クライアントはすぐにダイアログを表示して、ユーザの入力を待たなければならない。 もし FALSE ならばクライアントは  $kNkMAIDEventResult\_None$  値を返した後に少し遅れてダイアログを表示するか、ユーザの反応を待つかのどちらかを行うことができる。

より詳細な情報が存在する場合、lpDetail メンバは、モジュールによって提供される NULL 終端の文字列へのポインタとなる。ポインタはユーザインターフェイスコールバックの期間だけ有効である。クライアントは非同期でユーザインターフェイスを表示するときには、文字列のコピーを作成しなければならない。詳細な情報が無い場合には、lpDetail メンバは NULL にセットされなければならない。

ユーザインターフェイス要求が、Capability を持たない単なるメッセージの場合には、pObject および data メンバは NULL に設定されなければならない。Capability がユーザに表示される場合、data メンバはモジュールによって確保される NkMAIDArray 構造体を指す。配列構造体は、一つ以上の MAID Capability の ID (enkMAIDCapability で定めれられている)を含む。クライアントは、これらの Capability をユーザに表示しようと試みる。配列構造体は、以下に示すように設定されなければならない:

```
ulType = kNkMAIDArrayType_Unsigned
ulElements = <number of capabilities to be displayed>
ulDimSize1 = <same as ulElements>
ulDimSize2 = 0
ulDimSize3 = 0
wPhysicalBytes = 4
uLogicalBits = 32
pData = <array of capability IDs allocated by the module>
```

次の表は、ユーザインターフェイス要求のそれぞれの型に対する、クライアント側の記述の目安である。

Capability Type	Likely UI
Process	Button
Boolean	Check Box
Integer, Unsigned, Float, String	Edit Control
Point, Size, Rect	Custom UI
DateTime	Edit Controls or Custom UI

Callback	Undefined
Array	Radio Button Group
Range	Slider or Spin Control

#### 5.23 標準データ配送構造体

この構造体は、NkMAIDImageInfo、NkMAIDSoundInfo と NkMAIDFileInfo 構造体において使用される。これは、クライアントのデータ配送コールバック関数に対してどのようなデータ型が配送されようとしているのかを示す。kNkMAIDDataObjType\_File が他の値と共に ulType に含まれる場合、一緒に転送されるデータはファイルとして構成されており、NkMAIDFileInfo を使用しなければならない。

## 5.24 イメージデータ配送構造体

```
typedef struct tagNkMAIDImageInfo
         NkMAIDDataInfo base;
                                                // total size of image to be transfered
         NkMAIDSize
                            szTotalPixels;
         ULONG
                             ulColorSpace;
                                                   One of eNkMAIDColorSpace
                                                // coords of data, (0,0) = top left
// number of bytes per row of pixels
// number of bits per plane per pixel
         NKMAIDRect
                             rData;
         ULONG
                             ulRowBvtes:
                            wBits[4];
         WORD
         WORD
                            wPlane;
                                                // see below for description
                             fRemoveObject;
                                                   TRUE if the object should be removed
         BOOL
} NkMAIDImageInfo, FAR* LPNkMAIDImageInfo;
```

モジュールはイメージデータが配送されようとしていることを示すため、この構造体へのポインタをクライアントのデータ配送コールバック関数への pData パラメータへセットする。fColorSpace および wBits メンバは全体としてのイメージに適用される。カラー画像のうちの一つのプレーンのみが転送されようとしているときには、ulColorSpace は全イメージの色空間を示し、wBits の要素のすべてがセットされる。

データが、 $kNkMAIDColorSpace\_LineArt$  もしくは  $kNkMAIDColorSpace\_Gray$  で送られる場合、wPlane パラメータは無視される。データがカラーフォーマットのうちの一つで送られ、一度に一つのプレーンで送られる場合、wPlane パラメータは転送されるプレーンを示す。RGB および sRGB では R=1, G=2, B=3。 CMYK では C=1, M=2, Y=3, K=4。 Lab では L=1, A=2, B=3。 LCH では L=1, C=2, H=3 である。データがカラーフォーマットのうちの一つで送られ、ひとかたまりのフォーマットで転送される場合には、wPlane パラメータは 0 となる。

ひとかたまりのカラーデータは常にインターリーブ、ulColorSpace(RGB, CMYK, LAB もしくは LCH 順)で 指定された順序、LSB 整列およびバイト整列として配送される。これは、カラーあたり 10bit のデータは、 1ピクセルおよび1カラーあたり 2 バイトを占有し、有効なビットはそれぞれの 2 バイトのペアの中の下位 10bit になる。バイトオーダはシステムに固有である。Windows 環境、または Intel CPU の Macintosh 環境 では、下位バイトが最初となる。

モジュールは、fRemoveObject を TRUE にセットすることで、クライアントがデータの受信を完了後そのデータオブジェクトを削除するよう要求できる。クライアントは、この要求通りに動作する義務はない。分割してデータが転送される場合、最後の転送時のみこのフラグを TRUE にセットしなければならない。さもなければ、データが失われることになるかもしれない。クライアントは kNkMAIDCapability\_Remove を使ってデータオブジェクトを削除してもよい。アイテムオブジェクトに含まれるデータオブジェクトがそれ一つだけの場合、モジュールはアイテムオブジェクトを削除しても良い。この場合、モジュールはソースオブジ

ェクトに対し kNkMAIDEvent\_RemoveChild イベントを送らなければならない。

#### 5.25 音声データ配送構造体

```
typedef struct tagNkMAIDSoundInfo
              NkMAIDDataInfo base;
                                          ulTotalSamples; // number of full samples to be transferred fStereo; // TRUE if stereo, FALSE if mono
              ULONG
              BOOL
                                                                      // TRUE if stereo, FALSE IT MONO
// index of starting sample of data
// number of samples of data
// number of bits per channel
// 0 = mono or L+R; 1,2 = left, right
TRUE if the object should be removed
              ULONG
                                          ulStart;
              ULONG
                                          ullength;
              WORD
                                          wBits:
              WORD
                                          wChannel;
              BOOL
                                          fRemoveObject;
} NkMAIDSoundInfo, FAR* LPNkMAIDSoundInfo;
```

モジュールは音声データが配送されようとしていることを示すため、この構造体へのポインタをクライアントのデータ配送コールバック関数への pData パラメータへセットする。fStereo メンバは全体としてのサウンドに適用される。ステレオ音声のうちの1チャンネルのみが転送されようとしているときは、TRUE となる。

ステレオデータは、常にインターリーブ、LR 順、LSB 整列、バイト整列で配送される。これは、チャンネルあたり 10bit のデータは、1 サンプルおよび 1 チャンネルあたり 2 バイトを占有し、有効なビットはそれぞれの 2 バイトのペアの中の下位 10bit になる。バイトオーダはシステムに固有である。Windows 環境、または Intel CPU の Macintosh 環境では、下位バイトが最初となる。

モジュールは、fRemoveObject を true にセットすることで、クライアントがデータの受信を完了後そのデータオブジェクトを削除するよう要求できる。クライアントは、この要求通りに動作する義務はない。分割してデータが転送される場合、最後の転送時のみこのフラグを TRUE にセットしなければならない。さもなければ、データが失われることになるかもしれない。クライアントは kNkMAIDCapability\_Remove を使ってデータオブジェクトを削除してもよい。アイテムオブジェクトに含まれるデータオブジェクトがそれ一つだけの場合、モジュールはアイテムオブジェクトを削除しても良い。この場合、モジュールはソースオブジェクトに対し kNkMAIDEvent\_RemoveChild イベントを送らなければならない。

## 5.26 列挙構造体

```
typedef struct tagNkMAIDEnum
                                                              one of eNkMAIDArrayType
         ULONG
                             ulType;
                                                              total number of elements
current index (zero-based)
default index (zero-based)
         ULONG
                             ulElements;
                             ulvalue;
         ULONG
         UI ONG
                             ulDefault
                             wPhysicalBytes;
                                                              bytes per element
         WORD
                                                               allocated by the client
         LPVOID
                             pData;
} NkMAIDEnum, FAR* LPNkMAIDEnum;
```

NkMAIDEnum 構造体は、MAID インターフェイスを通じて列挙型が転送されるようにする。クライアントが常にメモリを確保する。データを適切に解釈するのは、データの受け側の責任である。pData のバイトサイズは、常に ulElements の wPhysicalBytes 倍でなければならない。

unsigned integer which will be interpreted as the index.

この構造体は、オプションを選択する機能を実装することができる。現在のインデックスは ulValue に、デフォルトのインデックスは ulDefault に設定される。もし ulType が kNkMAIDArrayType\_String もしくは kNkMAIDArrayType\_PackedString の場合は、文字列はユーザに提供されるテキスト表示である。

選択機能の値は、2つの方法でセットすることができる。クライアントは新しいインデックスを ulValue に

設定して NkMAIDEnum 構造体へのポインタを送ることができる。もしくはインデックスとして解釈される符号無し整数によって送ることもできる。

ulType が kNkMAIDArrayType\_PackedString の場合、pData は NULL で終端された文字列のパックされたリストへのポインタである。ulElements は終端の NULL バイトを含んだデータの全体バイト長である。wPhysicalBytes は 1 となる。

## 5.27 ファイルデータ配送構造体

```
typedef struct tagNkMAIDFileInfo
          NkMAIDDataInfo base;
                                        ulFileDataType; // One of eNkMAIDFileDataTypes ulTotalLength; // total number of bytes to be transferred
          ULONG
          ULONG
                                                            // index of starting byte (0-based)
// number of bytes in this delivery
          UI ONG
                                        ulStart:
          ULONG
                                        ulLength;
                                                                TRUE if the file is delivered on disk
          BOOL
                                        fDiskFile
          BOOL
                                        fRemoveObject;
                                                            // TRUE if the object should be removed
} NkMAIDFileInfo, FAR* LPNkMAIDFileInfo;
```

モジュールは、クライアントのデータ転送コールバック関数の pDataInfo に、この構造体へのポインタをセットする。転送されるデータの情報はこの構造体によりクライアントへ伝達される。ulFileDataType および ulTotalLength メンバはファイル全体に対応するものである。ulStart メンバは、転送されるデータがファイル内のどこに位置するかを示すオフセット値である。 ulLength メンバは、そのとき転送されるデータのサイズである。データが複数回に分けて転送される場合、それぞれの転送は先頭から終端まで正しい順番で行われなければならない。

ディスク上にあるファイルを転送する場合は、fDiskFile メンバを TRUE にセットし、データ転送コールバック関数の引数 pData には NkMAIDString 構造体へのポインタをセットする。この構造体には、転送しようとするファイルのフルパス(ファイル名を含む)をセットする。ディスク上のファイルを転送する場合、ulStart メンバに 0 を入れなければならない。モジュールにファイルサイズがわかっている場合、ulLength および ulTotalLength にはファイル全体のサイズを入れる。ファイルサイズがわからない場合は、両者共に0 を入れる。モジュールは、予めクライアントが kNkMAIDCapability\_AcceptDiskAcquisition キャパビリティで転送場所を設定していない限り、ディスクファイルとして転送してはならない。

モジュールは、fRemoveObject を TRUE にセットすることで、クライアントがデータの受信を完了後そのデータオブジェクトを削除するよう要求できる。クライアントは、この要求通りに動作する義務はない。分割してデータが転送される場合、最後の転送時のみこのフラグを TRUE にセットしなければならない。さもなければ、データが失われることになるかもしれない。クライアントは kNkMAIDCapability\_Remove を使ってデータオブジェクトを削除してもよい。アイテムオブジェクトに含まれるデータオブジェクトがそれ一つだけの場合、モジュールはアイテムオブジェクトを削除しても良い。この場合、モジュールはソースオブジェクトに対し kNkMAIDEvent\_RemoveChild イベントを送らなければならない。

# 6 戻り値

これらの値のうちのいずれかが、エントリポイント関数から戻される。完了コールバック関数へも同じ値が 送られる。

#### 6.1 kNkMAIDResult\_NotSupported

モジュールがこの値を返すのは以下の場合である。クライアントが指定されたオブジェクトに対して、存在 しない capability における操作をしようとした場合。もしくはクライアントが、capability に対してサポー トされていない操作を行おうとした場合。

## 6.2 kNkMAIDResult\_UnexpectedDataType

クライアントがエントリポイント関数へ渡す ulDataType パラメータを、コマンドもしくは capability に対して不適切な型で渡した場合に、モジュールはこの値を返す。

#### 6.3 kNkMAIDResult\_ValueOutOfBounds

クライアントが、capability を許されている範囲外に設定しようとした場合に、モジュールはこの値を返す。

#### 6.4 kNkMAIDResult BufferSize

モジュールがこの値を返すのは、以下の2つの場合のみである。クライアントが $kNkMAIDCommand\_GetCapInfo$ コマンドを送信して、カウントがcapabilitiesの数と一致しなかったとき。クライアントが、配列 capability に対してcapability に対してcapability に対してcapability に対けるデータサイズと一致しなかった場合。

#### 6.5 kNkMAIDResult\_Aborted

クライアントが、  $kNkMAIDCommand\_Abort$ ,  $kNkMAIDCommand\_AbortToMark$  もしくは  $kNkMAIDCommand\_Close$  コマンドを非同期のコマンドオブジェクトに対して送信したとき、モジュール は非同期コマンドに対してこの値を返す。

#### 6.6 kNkMAIDResult NoMedia

クライアントが、取得、オートフォーカス、イジェクトもしくはデバイス中にいくつかのメディアがなければならない他の capability 処理を開始しようとしたとき、モジュールはこの値を返す。

#### 6.7 kNkMAIDResult\_NoEventProc

クライアントが、 *kNkMAIDCapability\_EventProc* capability を NULL 以外の値で最初に設定せずに *kNkMAIDCommand\_EnumChildren* コマンドを送った場合、モジュールはこの値を返す。

#### 6.8 kNkMAIDResult\_ZombieObject

クライアントが、オブジェクトがもはや有効でないために、完了させることができないコマンドを送ろうと した場合、モジュールはこの値を返す。

## 6.9 kNkMAIDResult\_NoError

コマンドが正常に実行された場合に、モジュールはこの値を返す。

#### 6.10 kNkMAIDResult\_Pending

クライアントが、コマンドに対する完了コールバック関数を特定して、モジュールがコマンドが完了する前に、クライアントに制御を返す場合に、モジュールはこの値を返す。

## 6.11 kNkMAIDResult\_OrphanedChildren

クライアントが、オブジェクトの子がまだ開いている間に、そのオブジェクトを閉じようとしたときに、モジュールはこの値を返す。

#### 6.12 kNkMAIDResult\_NoDataProc

クライアントがオブジェクトに対して DataProc を指定しないで、*kNkMAIDCapability\_Acquire* により取り込みを開始した場合に、モジュールはこの値を返す。

## 6.13 kNkMAIDResult\_OutOfMemory

メモリ不足のため、なんらかの動作が成功しなかった場合に、モジュールはこの値を返す。

## 6.14 kNkMAIDResult\_UnexpectedError

予期せぬエラーにより、なんらかの動作が成功しなかった場合、モジュールはこの値を返す。

#### 6.15 kNkMAIDResult\_HardwareError

ハードウェアのエラーにより、なんらかの動作が成功しなかった場合、モジュールはこの値を返す。

#### 6.16 kNkMAIDResult\_MissingComponent

必要とされるファイルが見つからなかった、開くことができなかった、もしくはアクセスすることができなかったために、作業が完了しなかった場合、モジュールはこの値を返す。

# 7 イベント

イベントはクライアントにとってはオプションであるが、モジュールにとってはそうではない。イベントコールバック関数を通じて、クライアントが通知されるすべての状態は、 can be deduced by polling various elements (?)

#### 7.1 kNkMAIDEvent\_AddChild

クライアントは、 *kNkMAIDCapability\_Children* capability をポーリングすることにより、このイベントを推測することができる。

モジュールは、新しい子ソース、アイテムもしくはデータ型のオブジェクトの追加を検知した場合には、それぞれ親のモジュール、ソースもしくはアイテムオブジェクトに対して、このイベントを送る。イベントがモジュールもしくはソースに対して送られる場合には、dataパラメータは新しい子の ID となる。イベントがアイテムに送られる場合には、dataパラメータは eNkMAIDDataType のうちの一つとなる。

クライアントは、モジュールがオブジェクトのすべての子オブジェクトを列挙するように、要求するために

*kNkMAIDCommand\_EnumChildren* コマンドを送ることができる。モジュールは、それぞれの子のオブジェクトに *kNkMAIDEvent\_AddChild* を送る。イベントコールバック関数が存在しない場合、モジュールはコマンドに対して *kNkMAIDResult\_NoEventProc* を返す。

#### 7.2 kNkMAIDEvent\_RemoveChild

クライアントは、 *kNkMAIDCapability\_Children* capability をポーリングすることにより、このイベントを推測することができる。

モジュールは、子ソース、アイテムもしくはデータ型のオブジェクトの削除を検知した場合には、それぞれ親のモジュール、ソースもしくはアイテムオブジェクトに対して、このイベントを送る。イベントがモジュールもしくはソースに対して送られる場合には、dataパラメータは新しい(?)子の ID となる。イベントがアイテムに送られる場合には、dataパラメータは eNkMAIDDataType のうちの一つとなる。

このイベントを親オブジェクトに送る前に、最初にモジュールは、子オブジェクトに対して現在処理されている非同期コマンドをすべて中断する。そして、子オブジェクトの *kNkMAIDCapability\_Alive* capability を FALSE に設定する。

## 7.3 kNkMAIDEvent\_WarmingUp

クライアントは、  $kNkMAIDCapability\_WarmedUp$  capability を吟味することにより、このイベントを推測することができる。

デバイスが最高の品質を保証できない状態にあるときに、モジュールはソースオブジェクトに対して、このイベントを送る。例えば光源が最初に電源投入されたときなど。

#### 7.4 kNkMAIDEvent\_WarmedUp

クライアントは、  $kNkMAIDCapability\_WarmedUp$  capability を吟味することにより、このイベントを推測することができる。

デバイスが最高の品質を保証できない状態から抜け出したときに、モジュールはソースオブジェクトに対して、このイベントを送る。保証できない例としては、光源が最初に電源投入されたときなど。

#### 7.5 kNkMAIDEvent\_CapChange

クライアントは、capability の数と値を吟味することにより、このイベントを推測することができる。

モジュールは、Capability の数もしくは存在する Capability のどれかの値が変化した場合に、このイベントをモジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトに対して送る。通常、クライアントが  $kNkMAIDCommand\_CapSet$  コマンドによって単一の Capability の値を設定した場合には、このイベントは不要である。しかしながら、クライアントに指定された以外の Capability が  $kNkMAIDCommand\_CapSet$  コマンドによって影響を受ける場合には、このイベントが送られなけれればならない。

このイベントが単一の Capability の変化を示す場合には、data パラメータは変化した Capability の ID となる。複数の Capability の変化もしくは有効な Capability の数が変化した場合には、data パラメータは NULL となる。いくつかの Capability の値が変化した場合には、モジュールはそれぞれの Capability に対して一つの CapChange イベントを発行するか、もしくは data を NULL にして単一の CapChange イベントを発行

することになる。

## 7.6 kNkMAIDEvent\_OrphanedChildren

クライアントは、子オブジェクトの *kNkMAIDCapability\_Alive* capability を吟味することにより、このイベントを推測することができる。

モジュールはこのイベントを、閉じられようとしているオブジェクトが、まだ開かれている子オブジェクト を持っていることを通知するために、このイベントを送る。

## 7.7 kNkMAIDEvent\_CapChangeValueOnly

クライアントは、キャパビリティ ID と値からこのイベントを推定することができる。

キャパビリティの値が変わった時、モジュールはこのイベントをモジュール、ソース、アイテム、データオブジェクトに対して送る。このイベントは、値以外の性質(配列の要素数、列挙値、visibility・Invalid 属性等)は変わっていないことを暗に示している。値以外の性質が変わった場合は、 $kNkMAIDEvent\_CapChange$ を送らなければならない。 通常、クライアントが一つのキャパビリティに対して $kNkMAIDCommand\_CapSet$ コマンドで値をセットした場合、このイベントは不要である。しかし、その $kNkMAIDCommand\_CapSet$ コマンドが他のキャパビリティに影響する場合は、イベントを送らなければならない。

このイベントで一つのキャパビリティの変化を知らせる場合、data パラメータは、変化したキャパビリティの ID である。このイベントで多数のキャパビリティの変化を知らせる場合、data パラメータは NULL とする。 幾つかのキャパビリティの値が変化した場合、モジュールは、それぞれのキャパビリティへ CapChangeValueOnly を送るか、data = NULL で一度だけ送るか選択することができる。

# 8 コマンド

ここで記述されるコマンドのそれぞれについて、MAID entry point へのパラメータが何になるかに関する説明をおこなう。

すべてのコマンドは、処理するためにかなりの量の時間を必要とする。これはモジュールに任されている。 モジュールに対するある一つの呼び出しについて、同期コマンドとして完了するか、速やかにタスクを戻し、 別スレッドもしくは kNkMAIDCommand\_Async コマンド中で非同期コマンドとして処理するかは、モジュールの判断に任される。コマンドが実行されたとき、コマンドによって提供されている完了関数は、同期も しくは非同期のどちらで実行されようとも呼び出される。クライアントは、完了関数のポインタを特定せず にコマンドが同期的に実行されるように要求することができる。クライアントのコールバック(完了通知も しくはイベント通知など)の処理中に発行された非同期コマンドが、クライアントがコールバックを終了す るまでに、処理が完了するかどうかは状況による。これはモジュールの判断に任せられる。

クライアントは関連したいくつかの非同期コマンドを、前回のコマンドが完了するのを待たずに送信する場合がある。一連のコマンドの最後は、 $kNkMAIDCommand\_Mark$  コマンドになる。キュー中のコマンドの一つが失敗した場合、クライアントは、 $kNkMAIDCommand\_Mark$  コマンドを含む全ての他のコマンドを中断するために  $kNkMAIDCommand\_AbortToMark$  コマンド送信することができる。モジュールは、それぞれのコマンドに対して、nResult パラメータに  $kNkMAIDResult\_Aborted$  をセットして完了関数を呼び出

す。

問題は、あるモジュールがいくつかの同期コマンドを実行しているときに、他が非同期だった場合に発生する。もし同期コマンドよりも、非同期で処理されるコマンドが先に処理されてしまう場合、モジュールは新しいコマンドをすぐに処理することが安全かどうかを判断しなければならない。モジュールが新しいコマンドの処理を遅らせることにした場合、前のコマンドが完了するのを待った後に、新しいコマンドを同期的に処理するのか、非同期として処理される新しいコマンドを、キューの前のコマンドの後に追加するのかを判断しなければならない。

配列機能については、2つのコマンドがデータを取得するために送信されなければならない。どれだけのメモリを確保すればよいのかを知るには、クライアントは最初に  $kNkMAIDCommand\_CapGet$  コマンドを送らなければならない。モジュールは NkMAIDArray 構造体のすべてのメンバをセットする。一度、クライアントが 目盛りを確保して、NkMAIDArray 構造体の pData メンバをセットしたら、構造体は  $kNkMAIDCommand\_CapGetArray$  コマンドとして送信される。これらの呼び出しの間にデータのサイズが変化した場合には、モジュールは pData メンバには何もデータを入力せずに  $kNkMAIDResult\_BufferSize$  を返す。クライアントは別の  $kNkMAIDCommand\_CapGet$  コマンドを送信することで、処理を再度開始しなければならない。

## 8.1 kNkMAIDCommand\_Async

このコマンドは、シングルスレッドのモジュールにおける特定のオブジェクトに対する非同期コマンドを処理する。

**pObject** NULLもしくはモジュール、ソース、アイテム、データオブジェクトへの参照となる。

ulParam 無効 ulDataType 無効 data 無効

マルチスレッドもしくは同期のモジュールは、このコマンドに対して単に kNkMAIDResult\_NoError を返すことができる。

もしモジュールが、 kNkMAIDCapability\_AsyncRate 機能を持っていた場合、クライアントはこのコマンドをアイドル期間中に、特定された間隔で送信する。

モジュールはコマンドを処理中だが、 kNkMAIDC apability\_AsyncR ate 機能による特定された間隔ではなくて、コマンドをできる限りすぐに受信したいことを示す場合には、 kNkMAIDR esult\_P ending を返す。

#### 8.2 kNkMAIDCommand\_Open

このコマンドは、特定のオブジェクトの子を開く

**pObject** NULLもしくはモジュール、ソース、アイテムへの参照

ulParam NULL、ソースもしくはアイテムのID、もしくは開かれるべきデータオブジェクトの型

**ulDataType** *kNkMAIDDataType\_ObjectPtr*でなければならない。 **data** NkMAIDObject構造体へのポインタでなければならない。

このコマンドはモジュールがロードされた後に、最初に送られるコマンドである。pObject パラメータが NULL の場合、開かれたオブジェクトはモジュールオブジェクトで、まだ初期化されていなければ、自分自身で初期化を行う。pObject パラメータがモジュール、ソースもしくはアイテムを参照する場合、開かれたオブジェクトは、それぞれソース、アイテムもしくはデータオブジェクトである。

クライアントは、モジュールを呼び出す前に、data パラメータに渡される NkMAIDObject 構造体の refClient

メンバをセットする。モジュールは、状態、ポインタ、ハンドル、ID および他の識別子を維持するために、すべての内部的な構造体を、NkMAIDObject 構造体の refModule メンバに確保する。モジュールは、refClient を除いた NkMAIDObject の構造体メンバをすべてセットする。オブジェクトが開いている間、クライアントは refClient メンバの値を、モジュールは refModule の値を変更しない。 2 つのオブジェクトが refClient もしくは refModule に対して同じ値を持つことはできない。

このコマンドは、同じモジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトを開くために、同じクライアントによって一度以上使用されることがある。モジュールは独立した内部構造体と状態を、それぞれについて保持する。

コマンドが正常に終了した場合は、クライアントはモジュールを解放する前に、オブジェクトを閉じなければならない。

#### 8.3 kNkMAIDCommand Close

このコマンドは、特定されたモジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトとの接続を閉じる。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

ulParam 無効 ulDataType 無効 data 無効

モジュールはオブジェクトに対して非同期で処理中のコマンドをすべて中断する。モジュールは、 NkMAIDObject 構造体の refModule メンバを NULL にセットする。クライアントはオブジェクトを再度開 くことなしに構造体を再度使用することはない。

閉じられようとしているオブジェクトの子オブジェクトについて、クライアントがまだすべてを閉じていない場合、モジュールは  $kNkMAIDEvent\_OrphanedChildren$  イベントを送る。もしイベントコールバック関数が存在しないか、イベントコールバック関数がすべての子オブジェクトを閉じない場合、モジュールは  $kNkMAIDResult\_OrphanedChildren$  を返す。

## 8.4 kNkMAIDCommand\_GetCapCount

このコマンドは、指定されたモジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトのおける使用可能な機能の数を得る。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

ulParam 無効

**ulDataType** kNkMAIDDataType\_UnsignedPtrでなければならない data 32bitの符号無し整数へのポインタでなければならない。

#### 8.5 kNkMAIDCommand GetCapInfo

このコマンドは、指定されたモジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトのおける使用可能なすべての機能の情報を得る。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

**ulParam** 保存することのできるNkMAIDCapInfo構造体の数 **ulDataType** *kNkMAIDDataType\_CapInfoPtr*でなければならない

data NkMAIDCapInfo構造体の配列へのポインタでなければならない。

配列のサイズは、ulParam パラメータと一致していなければならない。もし異なっていた場合には、モジュ

ールは kNkMAIDResult\_BufferSize を返す。

## 8.6 kNkMAIDCommand\_CapStart

このコマンドは、指定されたモジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトにおける、指定された機能を開始する。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

ulParam 開始される機能のID

ulDataType 無効 data 無効

機能のNkMAIDCapInfo構造体において、ulTypeメンバは*kNkMAIDCapType\_Process*でなければならず、ulOperationsメンバは、ビットが *kNkMAIDCapOperation Start*セットされていなければならない。

## 8.7 kNkMAIDCommand\_CapSet

このコマンドは、指定されたモジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトにおける、指定された機能の値をセットする。

pObject モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

**ulParam** セットされる機能のID

ulDataType eNkMAIDDataTypeのうちの一つ

**data** 値もしくはポインタ

機能の NkMAIDCapInfo 構造体において、ulOperations メンバは *kNkMAIDCapOperation\_Set* ビットがセットされていなければならない。ulDataType に許される値は、以下の表に示すように、機能のNkMAIDCapInfo 構造体の ulType メンバに依存する。

ulType value	ulDataType value
kNkMAIDCapType_Boolean	kNkMAIDDataType_Boolean, kNkMAIDDataType_BooleanPtr
kNkMAIDCapType_Integer	kNkMAIDDataType_Integer, kNkMAIDDataType_IntegerPtr
kNkMAIDCapType_Unsigned	kNkMAIDDataType_Unsigned, kNkMAIDDataType_UnsignedPtr
kNkMAIDCapType_Float	kNkMAIDDataType_FloatPtr
kNkMAIDCapType_Point	kNkMAIDDataType_PointPtr
kNkMAIDCapType_Size	kNkMAIDDataType_SizePtr
kNkMAIDCapType_Rect	kNkMAIDDataType_RectPtr
kNkMAIDCapType_String	kNkMAIDDataType_StringPtr
kNkMAIDCapType_DateTime	kNkMAIDDataType_DateTimePtr
kNkMAIDCapType_Callback	kNkMAIDDataType_CallbackPtr, kNkMAIDDataType_Null
kNkMAIDCapType_Array	kNkMAIDDataType_ArrayPtr, kNkMAIDDataType_Unsigned
kNkMAIDCapType_Enum	kNkMAIDDataType_EnumPtr, kNkMAIDDataType_Unsigned
kNkMAIDCapType_Range	kNkMAIDDataType_RangePtr, kNkMAIDDataType_Unsigned
kNkMAIDCapType_Generic	kNkMAIDDataType_GenericPtr
kNkMAIDCapType_BoolDefault	kNkMAIDDataType_UnsignedPtr

kNkMAIDCapType\_Process型では、このコマンドは使用できない。

データ型がこの表と一致しない場合、モジュールは *kNkMAIDResult\_UnexpectedDataType* を返す。もし機能がこのコマンドをサポートしなければ、モジュールは *kNkMAIDResult\_NotSupported* を返す。

#### 8.8 kNkMAIDCommand\_CapGet

このコマンドは、指定されたモジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトにおける、指定された機能の値を得る。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

**ulParam** 受信する機能のID

ulDataType eNkMAIDDataTypeのうちの一つ

data ポインタ

機能の NkMAIDCapInfo 構造体において、ulOperations メンバは *kNkMAIDCapOperation\_Get* ビットがセットされていなければならない。ulDataType に許される値は、以下の表に示すように、機能のNkMAIDCapInfo 構造体の ulType メンバに依存する。

ulType value	ulDataType value
kNkMAIDCapType_Boolean	kNkMAIDDataType_BooleanPtr
kNkMAIDCapType_Integer	kNkMAIDDataType_IntegerPtr
kNkMAIDCapType_Unsigned	kNkMAIDDataType_UnsignedPtr
kNkMAIDCapType_Float	kNkMAIDDataType_FloatPtr
kNkMAIDCapType_Point	kNkMAIDDataType_PointPtr
kNkMAIDCapType_Size	kNkMAIDDataType_SizePtr
kNkMAIDCapType_Rect	kNkMAIDDataType_RectPtr
kNkMAIDCapType_String	kNkMAIDDataType_StringPtr
kNkMAIDCapType_DateTime	kNkMAIDDataType_DateTimePtr
kNkMAIDCapType_Callback	kNkMAIDDataType_CallbackPtr
kNkMAIDCapType_Array	kNkMAIDDataType_ArrayPtr
kNkMAIDCapType_Enum	kNkMAIDDataType_EnumPtr
kNkMAIDCapType_Range	kNkMAIDDataType_RangePtr
kNkMAIDCapType_Generic	kNkMAIDDataType_GenericPtr
kNkMAIDCapType_BoolDefault	kNkMAIDDataType_UnsignedPtr

kNkMAIDCapType\_Process 型では、このコマンドは使用できない。

データ型がこの表と一致しない場合、モジュールは *kNkMAIDResult\_UnexpectedDataType* を返す。もし機能がこのコマンドをサポートしなければ、モジュールは *kNkMAIDResult\_NotSupported* を返す。

## 8.9 kNkMAIDCommand\_CapGetDefault

このコマンドは、指定されたモジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトにおける、指定された機能のデフォルト値を得る。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

**ulParam** 受信する機能のID

ulDataType eNkMAIDDataTypeのうちの一つ

data ポインタ

機能の NkMAIDCapInfo 構造体において、ulOperations メンバは kNkMAIDCapOperation\_GetDefault ビットがセットされていなければならない。ulDataType に許される値は、以下の表に示すように、機能のNkMAIDCapInfo 構造体の ulType メンバに依存する。

ulType value	ulDataType value
kNkMAIDCapType_Boolean	kNkMAIDDataType_BooleanPtr
kNkMAIDCapType_Integer	kNkMAIDDataType_IntegerPtr
kNkMAIDCapType_Unsigned	kNkMAIDDataType_UnsignedPtr
kNkMAIDCapType_Float	kNkMAIDDataType_FloatPtr
kNkMAIDCapType_Point	kNkMAIDDataType_PointPtr
kNkMAIDCapType_Size	kNkMAIDDataType_SizePtr
kNkMAIDCapType_Rect	kNkMAIDDataType_RectPtr
kNkMAIDCapType_Generic	kNkMAIDDataType_GenericPtr

 $kNkMAIDCapType\_Process$ ,  $kNkMAIDCapType\_String$ ,  $kNkMAIDCapType\_DateTime$ ,  $kNkMAIDCapType\_Callback$ ,  $kNkMAIDCapType\_Array$ ,  $kNkMAIDCapType\_Enum$   $\sharp$   $\sharp$   $\circlearrowleft$ 

kNkMAIDCapType\_Range 型では、このコマンドは使用できない。

データ型がこの表と一致しない場合、モジュールは *kNkMAIDResult\_UnexpectedDataType* を返す。もし機能がこのコマンドをサポートしなければ、モジュールは *kNkMAIDResult\_NotSupported* を返す。

# 8.10 kNkMAIDCommand\_CapGetArray

このコマンドは、指定されたモジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトにおける、指定された配列機能に関連したデータを得る。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

**ulParam** データを得る配列機能のID

**ulDataType** *kNkMAIDDataType\_ArrayPtr, kNkMAIDDataType\_EnumPtr*でなければならない。 **data** NkMAIDArrayもしくはNkMAIDEnum構造体へのポインタでなければならない。

機能の NkMAIDCapInfo 構造体において、ulType メンバは kNkMAIDCapType\_Array もしくは kNkMAIDCapType\_Enum で、ulOperations メンバは kNkMAIDCapOperation\_GetArray ビットがセット されていなければならない。NkMAIDArray もしくは NkMAIDEnum 構造体のすべてのメンバは変更されない。モジュールは pData メンバによって指定されているアドレスへデータを保存するだけである。機能がこのコマンドをサポートしていない場合には、モジュールは kNkMAIDResult\_NotSupported を返す。モジュールが保存しようとするものと NkMAIDArray もしくは NkMAIDEnum 構造体のメンバが一致しない場合には、モジュールは kNkMAIDResult\_BufferSize を返す。

#### 8.11 kNkMAIDCommand Mark

このコマンドは、指定されたモジュール、ソース、アイテムおよびデータオブジェクトに対するキューにマークを挿入する。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

ulParam 無効 ulDataType 無効 data 無効

このコマンドは、モジュールによって非同期に実行されるコマンドをよりよくサポートするためのものである。モジュールは何の操作を実行する必要はないが、指定されたオブジェクトに対するすべての非同期コマンドが完了するまでは、このコマンドは完了しない。完了関数は、このコマンドに関しては提供されない。

#### 8.12 kNkMAIDCommand\_AbortToMark

このコマンドは、指定されたモジュール、ソース、アイテムおよびデータオブジェクトに対するキューにある非同期コマンドを中断する。これには次の kNkMAIDCommand\_Mark コマンドも含む。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

ulParam 無効 ulDataType 無効 data 無効

このコマンドはモジュールによって処理される非同期コマンドをよりよくサポートするためのものである。

クライアントは、いくつかの関連した非同期コマンドを、前の終了を待たずに発行することがある。一連の うちの最後は、  $kNkMAIDCommand\_Mark$  コマンドになる。もしキュー内のコマンドが失敗した場合、クライアントは  $kNkMAIDCommand\_Mark$  コマンドを含めた他のコマンドを中断するために、  $kNkMAIDCommand\_AbortToMark$  コマンドを送ることができる。モジュールはそれぞれのコマンドについ

て nResult パラメータを kNkMAIDResult\_Aborted にセットして完了関数を呼び出す。

もし kNkMAIDCommand\_Mark コマンドがなければ、すべての非同期コマンドが中断される。

指定されたオブジェクトに送られたコマンドだけが中断される。

#### 8.13 kNkMAIDCommand Abort

このコマンドは、現在処理されている非同期コマンドを中断する。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

ulParam 無効 ulDataType 無効 data 無効

このコマンドはモジュールによって処理される非同期コマンドをよりよくサポートするためのものである。 モジュールはコマンドの完了関数を kNkMAIDResult\_Aborted で呼び出す。

指定されたオブジェクトに送られたコマンドだけが中断される。

## 8.14 kNkMAIDCommand\_EnumChildren

モジュールはオブジェクトに対して、そのすべての子のための kNkMAIDEvent AddChildイベントを送る。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

ulParam 無効 ulDataType 無効 data 無効

このコマンドは、クライアントが、 kNkMAIDCapability\_EventProc 機能を NULL 以外の値にセットして いない場合には、何も行わない。

#### 8.15 kNkMAIDCommand GetParent

モジュールはオブジェクトの親に関する情報を得る。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

ulParam 無効

**ulDataType** *kNkMAIDDataType\_ObjectPtr*でなければならない **NkMAIDObject**構造体へのポインタでなければならない

モジュールは、オブジェクトの親の NkMAIDObject 構造体の値と一致させるために、NkMAIDObject 構造体のメンバを設定する。クライアントは、モジュールへの二次的な呼び出しにおいて、この構造体を使用する。しかしながら、すべての、親オブジェクトのために持つ持続的なデータが有効でありつづけることを保証するのは、クライアントの義務である。

# 8.16 kNkMAIDCommand\_ResetToDefault

モジュールはオブジェクトをデフォルトに戻す。

**pObject** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクトへの参照

ulParam 無効 ulDataType 無効 data 無効

モジュールは、オブジェクトが持つ全てのキャパビリティをリセットし、それぞれのデフォルト値に戻す。 選択されたオブジェクトが子オブジェクトまたはデータオブジェクトをオープンしている場合、それらのキャパビリティも同様にリセットされる。

# 9 Capabilities

ここで記述される機能のそれぞれについて、NkMAIDCapInfoのメンバが何になるかに関する説明をおこなう。

ここでとりあげる機能のほとんどは、クライアントによって明示的に取り扱われる。残りの機能とベンダー機能については、一般的な方法で取り扱われる。クライアントはこれらをユーザに説明するためにulVisibilityおよび szDescription メンバを使用する。

モジュールは、グループとして扱われるべき Capability のセットを指定することができる。グループに含まれるそれぞれの Capability は、ulVisibility メンバに *kNkMAIDCapVisibility\_GroupMember* 値を含まなければならない。これらの Capability をグループ化するために、新しい group Capability が生成されなければならない。この ulVisibility メンバは *kNkMAIDCapVisibility\_Group* 値を含まなければならない。この新しい Capability は *kNkMAIDCapType\_Array*型の Capability で、他の Capability の ID の配列を含む。クライアントが、*kNkMAIDCommand\_CapGet* コマンドによりこの Capability を読み込んだ場合には、モジュールは以下に示すように NkMAIDArray 構造体をセットする。

```
ulType = kNkMAIDArrayType_Unsigned
ulElements = <number of member-capabilities in this group>
ulDimSize1 = <same as ulElements>
ulDimSize2 = 0
ulDimSize3 = 0
wPhysicalBytes = 4
ULogicalBits = 32
pData = NULL
```

データを保持するのに十分なメモリを確保した後、クライアントはモジュールに対して  $kNkMAIDCommand\_CapGetArray$  コマンドを呼び出す。戻り時には、pData メンバは ULONG 値の配列を含んでいなければならない。それぞれの値は、他の Capability の ID となる。

# 9.1 kNkMAIDCapability\_AsyncRate

モジュールはこの機能を、クライアントがアイドルプロセス中に送信する kNkMAIDCommand\_Async コマンドの周期についての推奨値を知らせるために使用する。これはコマンド中でミリ秒単位で表現される。

Object types モジュールのみ

ulTypekNkMAIDCapType\_UnsignedulOperationskNkMAIDCapOperation\_Get

もしモジュールが周期的な kNkMAIDCommand\_Async コマンドを必要としないときは、この機能を提供してはならない。これはマルチスレッドのモジュールの場合などが考えられる。

周期は、モジュールからクライアントへの提案に過ぎない。クライアントは、モジュールが望むほどに早くは、コマンドを送信することはできないかもしれない。

詳細については、kNkMAIDCommand\_Async コマンドの記述を参照のこと。

#### 9.2 kNkMAIDCapability\_ProgressProc

モジュールは、長い処理の間にこのコールバックを呼ぶことができる。

**Object types** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクト

ulType kNkMAIDCapType\_Callback

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

オブジェクトに対して発行されたコマンドが、著しく時間がかかる場合には、クライアントがユーザに対して進行表示を提供できるようにするために、モジュールはこのコールバックを呼び出す。どのくらいの間隔

で、もしくはまったく呼び出さないかどうかは、モジュールに任されている。

初期値は NULL である。クライアントは、MAID entry point の ulDataType パラメータに *kNkMAIDDataType\_Null* をセットして、この機能を設定することにより、進行情報を必要としないことを示すことができる。

詳細については、MAIDProgress コールバック関数の記述を参照すること。

# 9.3 kNkMAIDCapability\_EventProc

モジュールはクライアントのイベントを通知するために、このコールバックルーチンを呼び出す。

**Object types** モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクト

ulType kNkMAIDCapType\_Callback

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

初期値は NULL である。クライアントは、MAID entry point の ulDataType パラメータに  $kNkMAIDDataType\_Null$  をセットして、この機能を設定することにより、イベント通知を必要としないことを示すことができる。

詳細については、MAIDEvent コールバック関数の記述を参照すること。

# 9.4 kNkMAIDCapability\_DataProc

モジュールは、クライアントに対してデータを渡すために、このコールバックを呼び出す。

**Object types** データオブジェクトのみ

 ${\bf ulType} \qquad \qquad kNkMAIDCapType\_Callback$ 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

モジュールは、データオブジェクトに対して、この機能を提供することを要求する。

初期値は NULL である。クライアントは、取得を開始する前に、この機能をセットしなければならない。一度、データが正常に取り交わされれば、クライアントは MAID entry point への ulDataType パラメータを  $kNkMAIDDataType\_Null$ にセットすることにより、この機能を設定することができる。

詳細については、MAIDData コールバック関数の記述を参照すること。

# 9.5 kNkMAIDCapability\_UIRequestProc

モジュールは、いくつかのユーザインターフェイスを表示させるように要求するために、このコマンドを使用できる。

Object types モジュールのみ

ulType kNkMAIDCapType Callback

**ulOperations** kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

モジュールは、モジュールオブジェクトに対して、この機能を提供するように要求される。クライアントは、 モジュールが開かれた直後に、この機能を設定しなければならない。もし設定されていなければ、モジュー ルはユーザに対して通知したり、ユーザに対して問い合わせをすることはできない。

初期値は NULL である。

詳細については、MAIDUIRequest コールバック関数の記述を参照すること。

# 9.6 kNkMADCapability\_IsAlive

これはオブジェクトの有効性の状態である。

Object types モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクト

ulType kNkMAIDCapType\_Boolean ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get

モジュールは、すべてのオブジェクトに対して、この capability を用意することを求められる。

この capability の値は通常 TRUE である。これが FALSE になるのは、オブジェクトがモジュールによって 削除されているか、クライアントによってオブジェクトの親が閉じられているときである。

# 9.7 kNkMAIDCapability\_Children

これは、子ソースのリストもしくはアイテムの ID である。

**Object types** モジュールもしくはソース **ulType** *kNkMAIDCapType\_Enum* 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_GetArray

モジュールは、モジュールもしくはソースオブジェクトに対して、この機能を提供するように要求される。

NkMAIDArray 構造体において、ulType は *kNkMAIDArrayType\_Unsigned* 、wPhysicalBytes は 4 となる。

#### 9.8 kNkMAIDCapability\_State

クライアントは、オブジェクトの状態を保存するために、この機能を使用することができる。

Object types モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクト

ulType kNkMAIDCapType\_Array

**ulOperations** *kNkMAIDCapOperation\_GetArray*, *kNkMAIDCapOperation\_Get*, *kNkMAIDCapOperation\_Set* 配列内のデータは、完全にモジュールに依存しており、クライアントは関与しない。データはクライアントによって、そのまま保存もしくは復元される。

NkMAIDArray 構造体内において、ulType は *kNkMAIDArrayType\_Unsigned* で、wPhysicalBytes は 1 で、wLogicalBits は 8 である。

#### 9.9 kNkMAIDCapability Name

これはオブジェクトの名前である。

Object types モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクト

 $\begin{array}{ll} \textbf{ulType} & kNkMAIDCapType\_String} \\ \textbf{ulOperations} & kNkMAIDCapOperation\_Get \end{array}$ 

kNkMAIDCapability\_Description機能と異なり、この機能は設定することはできない。モジュールは、記述名を保存できて、ユーザに名前を編集できるようにしたい場合には、この機能を使用しなければならない。

# 9.10 kNkMAIDCapability\_Description

これは、オブジェクトの説明である。

 Object types
 モジュール、ソース、アイテムもしくはデータオブジェクト

 ulType
 kNkMAIDCapType\_String or kNkMAIDCapType\_Array

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_GetArray for an array type, possibly

kNkMAIDCapOperation\_Set

モジュールは、オブジェクトを kNkMAIDCapability\_Name 機能よりも詳細に説明できる場合には、この機

能を用意する。これによりユーザは、説明されたオブジェクトを区別しやすくなる。

モジュールは、この機能を配列として実現する。NkMAIDArray 構造体の ulType メンバは、kNkMAIDArrayType\_String もしくは kNkMAIDArrayType\_PackedString である。

# 9.11 kNkMAIDCapability\_Interface

これは、ソースとの通信に使用されている物理インターフェイスに関する説明である。

Object types ソースのみ

 $\begin{array}{ll} \textbf{ulType} & kNkMAIDCapType\_String} \\ \textbf{ulOperations} & kNkMAIDCapOperation\_Get \end{array}$ 

これによりユーザはソースを識別しやすくなる。

# 9.12 kNkMAIDCapability\_DataTypes

これは、アイテムで有効なデータ型、もしくはソースが生成できるデータ型である。

**Object types** アイテムもしくはソース

ulType kNkMAIDCapType\_Unsigned ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get

値は、eNkMAIDDataObjType 値とのビット方法による組み合わせである。kNkMAIDDataObjType\_File をこのキャパビリティで使用してはならない。この値はデータ転送時のみ使用する。

# 9.13 kNkMAIDCapability\_DateTime

これはアイテムの捕捉の日時である。

Object types アイテムのみ

 $\begin{array}{ll} \textbf{ulType} & kNkMAIDCapType\_DateTime \\ \textbf{ulOperations} & kNkMAIDCapOperation\_Get \end{array}$ 

この capability は、保存の capabilities とともにデバイスに対して、モジュールによって提供されるのみである。スキャナモジュールはこれを提供しない。

# 9.14 kNkMAIDCapability\_StoredBytes

これは、デバイスに保存される際の、バイト表示によるオブジェクトのサイズである。

Object types アイテムもしくはデータオブジェクト

ulType kNkMAIDCapType\_Unsigned ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get

この capability は、保存の capabilities とともにデバイスに対して、モジュールによって提供されるのみである。

# 9.15 kNKMAIDCapability\_Eject

これはソースデバイスからメディアをイジェクトする。

Object types ソースもしくはアイテム
ulType kNkMAIDCapType\_Process
ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Start

この capability がソースに対して開始された場合、すべてのメディアがイジェクトされる。アイテムに対して開始された場合は、そのアイテムに対するメディアのみがイジェクトされる。

# 9.16 kNkMAIDCapability\_Feed

これはソースデバイス内にメディアを送り込む。

Object types ソースのみ

 $\begin{array}{ll} \textbf{ulType} & kNkMAIDCapType\_Process \\ \textbf{ulOperations} & kNkMAIDCapOperation\_Start \end{array}$ 

送り込まれるべきメディアがない場合には、モジュールは kNkMAIDResult\_NoMedia を返す。

# 9.17 kNkMAIDCapability\_Capture

これは、ソースデバイスの他のアイテムを捕捉する。

Object types ソースのみ

 $\begin{array}{ll} \textbf{ulType} & kNkMAIDCapType\_Process \\ \textbf{ulOperations} & kNkMAIDCapOperation\_Start \end{array}$ 

この処理が正常に終了した場合には、ソースは追加の子アイテムを持つことになる。ソースは再びそのアイテムを列挙しなければならない。

# 9.18 kNkMAIDCapability\_Mode

これはデータオブジェクトに対する要求モードである。

**Object types** データオブジェクトのみ **ulType** *kNkMAIDCapType\_Enum* 

**ulOperations** *kNkMAIDCapOperation\_Get*, *kNkMAIDCapOperation\_GetArray*, *kNkMAIDCapOperation\_Set* どのモードが有効で、どれを意味しているのかを決めるのは、モジュールに任されている。ユーザは文字列の配列の中から選択を行う。

NkMAIDEnum 構造体の ulType メンバは、  $kNkMAIDArrayType\_String$  もしくは  $kNkMAIDArrayType\_PackedString$ である。

#### 9.19 kNkMAIDCapability Acquire

これは取得を開始する。

Object types データオブジェクトのみ ulType kNkMAIDCapType\_Process ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Start

モジュールは、データとともにデータオブジェクトのデータ転送コールバックの呼び出しを開始する。モジュールはまた、取得にかなりの量の時間がかかりそうなばあいには、データオブジェクトの進行コールバックを呼び出す場合がある。

#### 9.20 kNkMAIDCapability\_Start

取得についての、秒単位での開始位置

**Object types** 音声もしくはビデオ

 ${f ulType} \hspace{1cm} kNkMAIDCapType\_Float$ 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

これは、音声もしくはビデオオブジェクトの最初からのオフセットである。この capability は、保存の capabilities とともにデバイスに対して、モジュールによって提供されるのみである。

# 9.21 kNkMAIDCapability\_Length

秒単位での、有効な長さもしくは取得された長さ

**Object types** 音声もしくはビデオ

ulType kNkMAIDCapType\_Float

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, possibly kNkMAIDCapOperation\_Set, possibly

kNkMAIDCapOperation\_GetDefault

デフォルト値は、保存の capability をもつデバイスに対するモジュールからの、有効な合計の長さになる。

# 9.22 kNkMAIDCapability\_SampleRate

取得における一秒あたりのサンプル数

**Object types** 音声もしくはビデオ

ulType kNkMAIDCapType Enum or kNkMAIDCapType Range

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, possibly kNkMAIDCapOperation\_Set

NkMAIDEnum 構造体における、ulType メンバは kNkMAIDArrayType\_Float である。

# 9.23 kNkMAIDCapability\_Stereo

これは、モノラルもしくはステレオのどちらかの型を選択する。

**Object types** 音声もしくはビデオ

ulType kNkMAIDCapType\_Boolean

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

モジュールがこの capability を用意していない場合、クライアントはデバイスがモノラルの取得のみが可能であるとする。

# 9.24 kNkMAIDCapability\_Samples

データオブジェクトの現在の状態で予想される、取得されるであろうサンプルの数

**Object types** 音声もしくはビデオ

ulType kNkMAIDCapType\_Unsigned ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get

# 9.25 kNkMAIDCapability\_Filter

これは、デバイスのライトソースに対してフィルタを選択する。

**Object types** イメージもしくはサムネイル **ulType** *kNkMAIDCapType\_Enum* 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_GetArray, kNkMAIDCapOperation\_Set NkMAIDArray 構造体において、ulType メンバは kNkMAIDArrayType\_Unsigned で、wPhysicalBytes は 4、wLogicalBits は 32 となる。配列は eNkMAIDFilter 列挙値を含む。

# 9.26 kNkMAIDCapability\_Prescan

デバイスは固有のメディアに対して自動的に自分自身のセットアップを行う。

Object types イメージもしくはサムネイル ulType kNkMAIDCapType\_Process ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Start

# 9.27 kNkMAIDCapability\_AutoFocus

デバイスは、デバイスのフォーカスを自動的に設定する。

Object types イメージもしくはサムネイル ulType kNkMAIDCapType\_Process ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Start

モジュールは、もし可能ならば、 kNkMAIDCapability\_Focus の値を更新しなければならない。

## 9.28 kNkMAIDCapability\_AutoFocusPt

これは、モジュールがフォーカス調整がおこなう場所である。

**Object types** イメージもしくはサムネイル **ulType** *kNkMAIDCapType\_Point* 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

モジュールは、一点でのフォーカスをサポートしていなければ、この capability を用意しなくても良い。

# 9.29 kNkMAIDCapability\_Focus

これは、デバイスのフォーカス位置である。

Object types イメージもしくはサムネイル

NkMAIDEnum 構造体において、ulType は kNkMAIDArrayType Float となる。

# 9.30 kNkMAIDCapability\_Coords

これは、最大解像度のピクセルで表現された、取得される対象領域である。

**Object types** イメージもしくはサムネイル **ulType** *kNkMAIDCapType\_Rect* 

**ulOperations** *kNkMAIDCapOperation\_Get*, *kNkMAIDCapOperation\_Set*, *kNkMAIDCapOperation\_GetDefault* デフォルト値は取得されうる領域のなかで、最も大きい領域となる。

# 9.31 kNkMAIDCapability\_Resolution

これは、pixels/inch 単位での取得される解像度である。

**Object types** イメージもしくはサムネイル

ulType kNkMAIDCapType\_Enum or kNkMAIDCapType\_Range

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_GetArray, kNkMAIDCapOperation\_Set

NkMAIDEnum 構造体において、ulType メンバは kNkMAIDArrayType Float となる。

#### 9.32 kNkMAIDCapability\_Preview

これはスピードもしくは品質の優先度を設定する。

**Object types** イメージもしくはサムネイル **ulType** *kNkMAIDCapType\_Boolean* 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

クライアントが、この capability を TRUE に設定した場合、モジュールはできる限り速く取得するようにしなければならない。 FALSE の場合、最高の品質で生成するようにしなければならない。

# 9.33 kNkMAIDCapability\_Negative

これは、もとのメディアがネガもしくはポジのどちらの型かを設定する。

**Object types** イメージもしくはサムネイル **ulType** *kNkMAIDCapType\_Boolean* 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

もしモジュールがこの capability を用意しない場合、クライアントはもとのメディアに対しては何の仮定もおこなわない。

# 9.34 kNkMAIDCapability\_ColorSpace

これはクライアントに対して送られるデータの色空間を選択する。

**Object types** イメージもしくはサムネイル **ulType** *kNkMAIDCapType Enum* 

**ulOperations** *kNkMAIDCapOperation\_Get*; *kNkMAIDCapOperation\_GetArray*, *kNkMAIDCapOperation\_Set* NkMAIDEnum 構造体において、ulType メンバは kNkMAIDArrayType\_Unsigned となる。wPhysicalBytes は 4 となる。列挙値は、eNkMAIDColorSpace の enum 値のうちの一つ以上の値を含む。

# 9.35 kNkMAIDCapability\_Bits

これは、カラーあたりの取得されるビット数を選ぶ。

**Object types** イメージもしくはサムネイル **ulType** *kNkMAIDCapType\_Enum* 

**ulOperations** *kNkMAIDCapOperation\_Get*, *kNkMAIDCapOperation\_Set*, *kNkMAIDCapOperation\_GetArray* もしモジュールがこの capability を用意しない場合には、クライアントは、デバイスはカラーあたり 8 ビットが要求できると判断する。

# 9.36 kNkMAIDCapability\_Planar

これは、オブジェクトによってサポートされる転送モードを報告するに過ぎない。

**Object types** イメージもしくはサムネイル **ulType** *kNkMAIDCapType\_Boolean* 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get possibly kNkMAIDCapOperation\_Set

モジュールがデータを planar もしくは interleaved のいずれかで転送したい場合、 $kNkMAIDCommand\_CapSet$ コマンドはサポートしない。

#### 9.37 kNkMAIDCapability\_Lut

イメージデータがクライアントに転送される前に適用される、ルックアップテーブルを設定する。

**Object types** イメージもしくはサムネイル **ulType** *kNkMAIDCapType\_Array* 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set, kNkMAIDCapOperation\_GetArray NkMAIDArray 構造体において、ulType メンバは kNkMAIDArrayType\_Unsigned である。カラーイメージについては、配列は2つ以上のルックアップテーブルを持ち、順番は現在の色空間に依存する。RGB の場合は3つのテーブルで、順番は赤、緑そして青となる。CMYK の場合は4つのテーブルで、順番はシアン、マジェンダ、黄色、黒色となる。モノクロイメージについては、ルックアップテーブルは一つのみ存在する。

# 9.38 kNkMAIDCapability\_Transparency

これは、もとのメディアが、透過もしくは反射のいずれかの型かを選択する。

**Object types** イメージもしくはサムネイル **ulType** *kNkMAIDCapType\_Boolean* 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

モジュールがこの capability を用意しない場合、クライアントはもとのメディアに対して何の仮定も行わない。

# 9.39 kNkMAIDCapability\_Threshold

これは、二色イメージの閾値である。

**Object types** イメージもしくはサムネイル **ulType** *kNkMAIDCapType\_Range* 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

# 9.40 kNkMAIDCapability\_Pixels

データオブジェクトの現在の状態から取得できるであろうピクセルの数。

Object types イメージ、サムネイルもしくはビデオ

ulType kNkMAIDCapType\_Size ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get

# 9.41 kNkMAIDCapability\_ForceScan

デバイスによって実行される読み込み動作(モジュールによって決められる)が不要かどうかを決定する。

**Object types** Data object only

ulType kNkMAIDCapType Boolean

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get; kNkMAIDCapOperation\_Set

この Capability が TRUE にセットされている場合、kNkMAIDCapability\_Acquire が開始されたときには、 デバイスは常に物理的な読み込み動作を行う。この Capability が FALSE にセットされている場合、モジュールは現在の状態に基づいて、このような読み込み動作が必要かどうかを決定する。 物理的な読み込み動作が必要ない場合には、通常の取得における動作と同じステップを踏まなければならない(データ転送や I/O 完了通知など)。 異なるのは、データがデバイスからではなく内部のバッファから供給されるという点だけである。この Capability のデフォルト値は TRUE である。

# 9.42 kNkMAIDCapability\_ForcePrescan

デバイスによって実行されるプリスキャン動作(モジュールによって決められる)が不要かどうかを決定する。

**Object types** Data object only

ulType kNkMAIDCapType\_Boolean

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get; kNkMAIDCapOperation\_Set

この Capability が TRUE にセットされている場合、kNkMAIDCapability\_Prescan が開始されたときには、デバイスは常に物理的なプリスキャン動作を行う。この Capability が FALSE にセットされている場合、モジュールは現在の状態に基づいて、このような動作が必要かどうかを決定する。物理的なプリスキャン動作が必要ない場合には、通常のプリスキャンにおける動作と同じステップを踏まなければならない(I/O 完了通知など)。この Capability のデフォルト値は TRUE である。

# 9.43 kNkMAIDCapability\_ForceAutoFocus

デバイスによって実行されるオートフォーカス動作(モジュールによって決められる)が不要かどうかを決定する。

Object types Data object only

ulType kNkMAIDCapType\_Boolean

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get; kNkMAIDCapOperation\_Set

この Capability が TRUE にセットされている場合、kNkMAIDCapability\_AutoFocus が開始されたときには、デバイスは常に物理的なオートフォーカス動作を行う。この Capability が FALSE にセットされている場合、モジュールは現在の状態に基づいて、このような動作が必要かどうかを決定する。物理的なオートフォーカス動作が必要ない場合には、通常のオートフォーカスにおける動作と同じステップを踏まなければならない(I/O 完了通知など)。この Capability のデフォルト値は TRUE である。

# 9.44 kNkMAIDCapability\_NegativeDefault

ソースオブジェクト用の Capability で、*kNkMAIDCapability\_Negative* に設定されるデフォルト値を決定する。

Object types Source object only

ulType kNkMAIDCapType\_Unsigned

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get; kNkMAIDCapOperation\_Set

一度この Capability が設定された場合、それ以降はこのソースオブジェクトで生成される全ての Image オブジェクトの、*kNkMAIDCapability\_Negative* のデフォルト値として、この Capability の値が使用される。この Capability がソースオブジェクトに存在しない、クライアントに設定されていない、もしくは *kNkMAIDBooleanDefault\_None* に設定されている場合、モジュールは Item に対して適切なデフォルト値を使用することができる。

モジュールはハードウェアの状態の変化に応じて、この Capability の値を変更することができる。モジュールがこのような変更を行う場合には、 $kNkMAIDEvent\_CapChange$  のイベントによって通知しなければならない。

#### 9.45 kNkMAIDCapability Firmware

ソースオブジェクト用の Capability で、デバイスのファームウェアのバージョンを保持する。

**Object types** Source object only

ulType kNkMAIDCapType\_String ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get

この Capability によって、クライアントはデバイスのファームウェアのバージョンを知ることができる。

# 9.46 kNkMAIDCapability\_CommunicationLevel1

ソースオブジェクト用の Capability で、デバイスとの間の通信方法を規定する。

Object types Source object only

ulType kNkMAIDCapType Enum

**ulOperations** *kNkMAIDCapOperation\_Get; kNkMAIDCapOperation\_GetArray;* 

kNkMAIDCapOperation\_GetDefault; kNkMAIDCapOperation\_Set

モジュールはサポートする通信方式を決定する。ユーザーはその文字列から選択することになる。 NkMAIDEnum 構造体の ulType メンバは、 $kNkMAIDArrayType\_String$  または $kNkMAIDArrayType\_PackedString$ となる。例えばこのリストには"COM1"、"COM2"、"COM3"、"COM4"、

"SCSI"のような文字列が含まれる。任意に、モジュールはシステムを解析し、そのシステムがサポートしない通信方式を除外することができる。例に挙げた"COM3"、"COM4"は、システムがそれらのポートをサポートしていない場合削除されることもある。

# 9.47 kNkMAIDCapability\_CommunicationLevel2

ソースオブジェクト用の Capability で、デバイスとの間の通信方法について詳細を規定する。

**Object types** Source object only

ulType kNkMAIDCapType\_Enum

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get; kNkMAIDCapOperation\_GetArray;

kNkMAIDCapOperation\_GetDefault; kNkMAIDCapOperation\_Set

このキャパビリティは、通信方式について詳しく規定する文字列のリストを構成する。ユーザーはその文字列から選択することになる。NkMAIDEnum 構造体の ulType メンバは、 $kNkMAIDArrayType\_String$  または  $kNkMAIDArrayType\_PackedString$  となる。 $kNkMAIDCapability\_CommunicationLevel1$  で通信方式として"COM1"が選択された場合、典型的なリストは、"Comm Speed 19,200"、"Comm Speed 38,400"、"Comm Speed 57,600"、"Comm Speed 115,200"のようになる。任意に、モジュールはシステムを解析し、そのシステムがサポートしない通信方式を除外することができる。通信方式が $kNkMAIDCapability\_CommunicationLevel1$  のみで十分規定され、詳しい情報が必要ない場合、NkMAIDEnum 構造体の ulElements メンバに 0 をセットしなければならない。

# 9.48 kNkMAIDCapability\_BatteryLevel

ソースオブジェクト用の Capability で、バッテリレベルを報告する。

**Object types** Source object only

ulType kNkMAIDCapType\_Integer ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get

デバイスがバッテリ使用可能の場合、このキャパビリティをサポートしなければならない。バッテリ使用中このキャパビリティの問い合わせがあったら、モジュールは0から100までの整数を返さなければならない。この数値はバッテリ残量を百分率で表したものである。バッテリを使用していない時(外部電源使用中等)、このキャパビリティの問い合わせに対してモジュールは1を返す。

# 9.49 kNkMAIDCapability\_FreeBytes

ソースオブジェクト用の Capability で、デバイス内の記憶媒体の空きバイト数を報告する。

Object types Source object only

ulType kNkMAIDCapType\_Float ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get

デバイスがコンパクトフラッシュ等の記憶装置を使用できる場合、このキャパビリティをサポートしなければならない。このキャパビリティは正の整数を使用するが、整数型変数の上限に制限されぬよう浮動小数点型を用いている。

#### 9.50 kNkMAIDCapability\_FreeItems

ソースオブジェクト用の Capability で、デバイスが現在の設定で内蔵記憶媒体に記録できるアイテム数を報告する。

**Object types** Source object only

ulType kNkMAIDCapType\_Unsigned ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get

デバイスがコンパクトフラッシュ等の記憶装置を使用できる場合、このキャパビリティをサポートしなければならない。

# 9.51 kNkMAIDCapability\_Remove

デバイスに記憶媒体からオブジェクトを削除するよう指示する。

Object types Source, item, data object ulType kNkMAIDCapType\_Process ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Start

このキャパビリティがアイテムまたはデータオブジェクトに対して実行された場合、そのオブジェクトはデバイスから削除されなければならない。このキャパビリティがソースオブジェクトに対して実行された場合、全てのアイテムとその下にあるデータオブジェクトは、デバイスから削除されなければならない。

# 9.52 kNkMAIDCapability\_FlashMode

スピードライトモードを設定する。

Object types Source, item, data object ulType kNkMAIDCapType\_Enum

**ulOperations** kNkMAIDCapOperation\_Get; kNkMAIDCapOperation\_GetArray;

kNkMAIDCapOperation\_GetDefault; kNkMAIDCapOperation\_Set

NkMAIDEnum 構造体の ulType は *kNkMAIDArrayType\_Unsigned*、wPhysicalBytes は 4 となる。この列 挙値は eNkMAIDFlashMode の一つ以上を含む。

# 9.53 kNkMAIDCapability\_ModuleType

このモジュールが用いられるデバイスのタイプを報告する。

Object types Module object only

ulTypekNkMAIDCapType\_UnsignedulOperationskNkMAIDCapOperation\_Get

このキャパビリティの値は、ビットアサインで eNkMAIDModuleType で列挙される 1 つ以上のビットを含む。このキャパビリティは、クライアントがこのモジュールを使うかどうか、あるいはユーザーインターフェースを表示するかどうか決定するのに役立つ。

# 9.54 kNkMAIDCapability\_AcquireStreamStart

ストリームデータの取得を開始する。

**Object types** Data object only

ulType kNkMAIDCapType\_Process ulOperations kNkMAIDCapOperation Start

モジュールはデータオブジェクトのデータ転送コールバック関数を用いて転送を開始する。このプロセスは クライアントが停止の指示を出すまで繰り返される。そのため、進行通知関数を呼んではならない。

# 9.55 kNkMAIDCapability\_AcquireStreamStop

ストリームデータの取得を停止する。

**Object types** Data object only

 $\begin{array}{ll} \textbf{ulType} & kNkMAIDCapType\_Process \\ \textbf{ulOperations} & kNkMAIDCapOperation\_Start \end{array}$ 

ストリームデータ所得中でない場合、モジュールは kNkMAIDResult\_UnexpectedError を返す。

# 9.56 kNkMAIDCapability\_AcceptDiskAcquisition

モジュールが、kNkMAIDCapability\_Acquireに対してディスク上のファイルを渡すことを許可する。

**Object types** Source object only

ulType kNkMAIDCapType\_Generic

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_Set

クライアントがこのキャパビリティに NULL 以外のパラメータをセットしていない限り、モジュールは画像 データを要求された時、ディスクファイルとしてクライアントに渡してはならない。クライアントは保存先 を指定するのにこのキャパビリティを使用する。一旦この指定がなされると、モジュールはメモリ上での転送に代えてディスク上のファイルとして渡すことができる。ファイルが書き込まれクローズした後、モジュールはデータオブジェクトのデータ転送コールバック関数を呼ばなければならない。Windows において pData は、ファイルが書き込まれるフォルダのフルパスを含む NkMAIDString 構造体へのポインタでなければならない。Macintosh において pData は、ファイルが書き込まれるフォルダを示す FSSpec 構造体へのポインタでなければならない。モジュールは指定されたフォルダ内で重複しないファイル名を選定する。データ転送コールバック関数をコールしたら、モジュールは如何なる理由があってもそのファイルにアクセスしてはならない。ディスクに書き込むのに長い時間がかかる場合、モジュールはデータオブジェクトの進行通知コールバック関数を呼んでも良い。

#### 9.57 kNkMAIDCapability\_Version

モジュールが準拠する MAID のバージョンを返す。

Object types Module object only

ulType kNkMAIDCapType\_Unsigned ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get

クライアントはこのキャパビリティにより、モジュールが準拠する MAID のバージョンを知ることができる。 このキャパビリティは、MAID バージョン 3.1 より導入された。 したがって MAID バージョン 3.1 以前に基づいて作成されたモジュールはサポートしない( $kNkMAIDResult\_NotSupported$  を返す)。

このキャパビリティは、4 バイトの符号なし整数を返す。MAID バージョン番号は4つの部分に分解され、 最上位の数字は最上位のバイトに、最下位の数字は最下位のバイトに割り当てられる。例えば MAID バージョン 3.1 の場合、最上位バイトは 3、次のバイトは 1、その次のバイトは 0、最下位バイトは 0 となる。

# 9.58 kNkMAIDCapability\_FilmFormat

現在のフィルムフォーマットを表示・選択するためのキャパビリティである。

**Object types** Source object only

 ${\bf ulType} \hspace{1.5cm} kNkMAIDCapType\_Enum$ 

ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get, kNkMAIDCapOperation\_GetArray, kNkMAIDCapOperation\_Set NkMAIDEnum 構造体の ulType メンバは、kNkMAIDArrayType\_String もしくはkNkMAIDArrayType\_PackedStringとなる。要素数は1もしくはそれ以上となる。

クライアントは、このキャパビリティによってフィルムフォーマットを選択することができる。例えば、フィルムフォーマットには、 "35mm"、 "6x6"や "6x4.5" などが含まれる。要素数が1の場合には、フィ

ルムフォーマットが選択できないことを意味し、サポートされているフィルムフォーマット名が要素として 含まれる。

# 9.59 kNkMAIDCapability\_TotalBytes

これはソースオブジェクトのキャパビリティで、装置の内部メモリの総メモリ量を返す。

Object types Source object only

ulType kNkMAIDCapType\_Float ulOperations kNkMAIDCapOperation\_Get

装置がなんらかの記憶装置をもつ場合、このキャパビリティがサポートされる。(例:コンパクトフラッシュなど)。通常、正の整数値として総メモリ量が表される。ulType が浮動小数点となっているのは、巨大なメモリ容量を持つ装置に対応するためである。

# 10 関数定義

#### 10.1 MAID エントリポイント関数

```
LONG MAIDEntryPoint(
                                                // module, source, item or data object
// one of eNkMAIDCommand
         LPNkMAIDObject
                             pObject,
         ULONG
                             ulCommand,
                                                // parameter for the command
         ULONG
                             ulParam,
         ULONG
                             ulDataType,
                                                   one of eNkMAIDDataType
                                                // pointer or long integer
// function to call when complete, may be null
         NKPARAM
                             data.
                             pfnComplete,
         LPNKFUNC
                                                // passed to pfnComplete
         NKREF
                             refComplete
);
```

戻り値は、eNkMAIDResult のうちの一つとなる。

# 10.2 MAID 完了関数

```
void MAIDCompletion(
         LPNkMAIDObject
                          pObject,
                                             // module, source, item or data object
                           ulCommand,
         ULONG
                                                one of eNkMAIDCommand
         ULONG
                           ulParam,
                                                parameter for the command
                           ulDataType,
                                             // one of eNkMAIDDataType
         ULONG
                                             // pointer or long integer
// passed to MAIDEntryPoint
         NKPARAM
                           data.
                           refComplete.
         NKREF
         LONG
                           nResult
                                                one of eNkMAIDResult
);
```

これはクライアントによって提供されるコールバック関数のプレースホルダである。この関数は、コマンドを完了した後に、モジュールから呼び出される。パラメータは、MAID エントリポイントに渡されたのと同じパラメータである。

#### 10.3 MAID データ 転送関数

```
LONG MAIDData(

NKREF

LPNkMAIDDataInfo

LPVOID

Data

NKREF

refProc, // reference set by client
// cast to LPNkMAIDImageInfo or LPNkMAIDSoundInfo
pData

pData
```

これはクライアントによって提供されるコールバック関数のプレースホルダである。この関数は、データを 転送するためにモジュールから呼び出される。戻り値は、eNkMAIDResult のうちの一つになる。

# 10.4 MAID イベント通知関数

これはクライアントによって提供されるコールバック関数のプレースホルダである。この関数は、イベントをクライアントに通知するために、モジュールから呼び出される。

# 10.5 MAID 進行通知関数

```
void MAIDProgress(
                                          // one of eNkMAIDCommand
        ULONG
                         ulCommand,
                                          // parameter for the command
        ULONG
                         ulParam,
        NKREF
                         refProc,
                                             reference set by client
        UI ONG
                         ulDone.
                                             the numerator
                                          // the denominator
        ULONG
                         ulTotal
);
```

これはクライアントによって提供されるコールバック関数のプレースホルダである。この関数は、非同期コマンドの進行についてクライアントに通知するために、モジュールから呼び出される。

モジュールは、コマンドの開始時に、この関数の ulDone パラメータを 0 にセットして呼び出す。コマンドが完了したときに、モジュールは ulDone パラメータを ulTotal パラメータに等しくして、この関数を呼び出す。モジュールは、ulDone パラメータを 0 およびちょうど ulTotal にセットして、この関数を一度づつ呼び出す。

コマンドの進行状態が計測できない場合、モジュールは ulDone を 1 に ulTotal を 0 にセットして、コマンドの開始の段階でこの関数を呼び出す。コマンドが完了した時、モジュールは ulDone と ulTotal を共に 0 にセットしてこの関数を呼び出す。

# 10.6 MAID ユーザインターフェイス要求関数

これはクライアントによって提供されるコールバック関数のプレースホルダである。この関数は、ユーザに対する通知もしくはユーザへの問いかけのために、モジュールによって呼び出される。pObject パラメータは、ユーザに対して表示するための Capability をユーザインターフェイス要求が含んでいる場合に使用される。表示するための Capability がない場合は、このパラメータは NULL となる。pUIRequest パラメータは、NkMAIDUIRequestInfo 構造体へのポインタである。この構造体は、メッセージ、ボタンについての情報を含んでいる。オプションとして、表示するための Capability についての情報も含む(?)。戻り値は、eNkMAIDUIRequestResult のうちの一つとなる。

# 11 変更履歴

#### 11.1 Version 3.0 Revision 2 からの変更

「使用法」の章を追加。

「変更履歴」の章を追加。

「Capability」の章に加筆。

「関数定義」の章で、関数の説明を補完。

NkMAIDPoint、NkMAIDRect 構造体を追加。

eNkMAIDFilter 列挙値を追加。

eNkMAIDResult において、 kNkMAIDResult\_Aborted、 kNkMAIDResult\_NoMedia を追加、kNkMAIDResult NotLocked、kNkMAIDResult Lockedを削除。

eNkMAIDCommand において、kNkMAIDCommand\_Abort を追加、kNkMAIDCommand\_OpenModule、kNkMAIDCommand\_GetChildCount、kNkMAIDCommand\_GetChildIDsを削除、kNkMAIDCommand\_OpenChildをkNkMAIDCommand Openに、kNkMAIDCommand ClearToMarkをkNkMAIDCommand AbortToMarkに変更。

eNkMAIDCapability において、kNkMAIDCapability\_Children、kNkMAIDCapability\_Start、kNkMAIDCapability\_Prescan、kNkMAIDCapability\_AutoFocus、kNkMAIDCapability\_AutoFocusPt、kNkMAIDCapability\_Preview、kNkMAIDCapability\_Transparency、kNkMAIDCapability\_Thresholdを追加、kNkMAIDCapability\_Abort、kNkMAIDCapability\_DataObjを削除、kNkMAIDCapability\_DataAvailableをkNkMAIDCapability\_DataTypesに、kNkMAIDCapability\_DateをkNkMAIDCapability\_DateTimeに、kNkMAIDCapability\_AcquireModeをkNkMAIDCapability\_Modeに、kNkMAIDCapability\_LightSourceをkNkMAIDCapability\_Filterに変更。

eNkMAIDDataType に kNkMAIDDataType PointPtr、kNkMAIDDataType RectPtrを追加。

eNkMAIDArrayType に kNkMAIDArrayType Point、kNkMAIDArrayType Rect を追加。

eNkMAIDCapTypeにknkMAIDCapType Point、kNkMAIDCapType Rectを追加。

kNkMAIDCommand Mark と kNkMAIDCommand AbortToMark のコメントを変更。

NkMAIDObject 構造体の ulObjectType メンバを ulType に変更。

# 11.2 Version 3.0 Revision 3 からの変更

「関数定義」、「構造体と型」の章で、データ転送関数、イベント通知関数、進行通知関数の引数にリファレンスを追加した。

ULONG 、NKPARAM 、LPVOID 、NKREF 、LPMAIDEntryPointProc 、LPMAIDCompletionProc 、LPMAIDDataProc、LPMAIDEventProcの定義を追加。

eNkMAIDDataType に お い て 、 kNkMAIDDataType\_CharPtr 、 kNkMAIDDataType\_ShortPtr 、 kNkMAIDDataType\_BytePtr 、 kNkMAIDDataType\_WordPtr を 削 除 、 kNkMAIDDataType\_LongPtr を kNkMAIDDataType\_IntegerPtr に、kNkMAIDDataType\_DwordPtr を kNkMAIDDataType\_UnsignedPtr に変更。

eNkMAIDCapType において、kNkMAIDCapType\_Char、kNkMAIDCapType\_Short、kNkMAIDCapType\_Byte、kNkMAIDCapType\_Word を削除、kNkMAIDCapType\_Long を kNkMAIDCapType\_Integer に、kNkMAIDCapType\_DwordをkNkMAIDCapType\_Unsignedに変更。

## 11.3 Version 3.0 Revision 4 からの変更

章節番号を付けた。

eNkMAIDCapability に kNkMAIDCapability\_Pixels 、 kNkMAIDCapability\_Stereo 、 kNkMAIDCapability\_Samples を 追 加 し 、 kNkMAIDCapability\_Size を kNkMAIDCapability\_StoredBytes に変更。

eNkMAIDEvent で kNkMAIDEvent\_Add を kNkMAIDEvent\_AddChild に、kNkMAIDEvent\_Remove を kNkMAIDEvent\_RemoveChild に変更。

eNkMAIDDataType に kNkMAIDDataType\_SizePtr を追加。

eNkMAIDArrayType に kNkMAIDArrayType\_Size を追加。

eNkMAIDCapType に kNkMAIDCapType\_Size を追加。

NkMAIDArray 構造体に ulDimSize3 メンバを追加し、説明を改正。

NkMAIDUIEventInfo、NkMAIDDataInfo、NkMAIDImageInfo 、NkMAIDSoundInfo 構造体を追加。

# 11.4 Version 3.0 Revision 5 からの変更

「使用法」の章において、「オブジェクトの追加と削除」を削除し、「イベントの通知」、「ユーザーイン ターフェイスの要求」を追加した。

eNkMAIDEvent に kNkMAIDEvent\_NewMedia 、 kNkMAIDEvent\_MediaRemoved を 追 加 、kNkMAIDEvent\_UserInterface を削除。

eNkMAIDUIEventType を eNkMAIDUIRequestType に変更。

eNkMAIDEventResult を eNkMAIDUIRequestResult に変更。

eNkMAIDCommand に kNkMAIDCommand\_EnumChildren を追加。

eNkMAIDCapability に kNkMAIDCapability\_UIRequestProc、kNkMAIDCapability\_MediaPresent.を追加。

「コマンド」、「使用法」の章において、kNkMAIDCommand\_Open の説明を変更した。

ユーザーインターフェイス要求関数のポインタ LPMAIDUIRequestProc を追加。

「構造体と型」の章にユーザーインターフェイス要求構造体を追加。

「コマンド」の章に kNkMAIDCommand\_EnumChildren の説明を追加。

イベント通知コールバック関数の戻り値を ULONG から void に変更。

#### 11.5 Version 3.0 Revision 6 からの変更

- 4.1 eNkMAIDResult に kNkMAIDResult\_ZombieObject と kNkMAIDResult\_OrphanedChildren を追加。
- 4.13 eNkMAIDCommand、8 章に kNkMAIDCommand\_GetParent を追加。
- 4.14 eNkMAIDCapability、9 章に kNkMAIDCapability\_Alive を追加。
- 4.9 eNkMAIDEvent 、 7 章 に kNkMAIDEvent\_WarmedUp 、 kNkMAIDEvent\_CapChange 、

kNkMAIDEvent\_OrphanedChildren を 追 加 し 、 kNkMAIDEvent\_NewMedia 、kNkMAIDEvent\_MediaRemoved を削除。

- 4.10 eNkMAIDUIRequestType に kNkMAIDUIRequestType\_CustomOkCancel を追加。
- 5.21 オブジェクト構造体にリファレンス(NKREF)の説明を追加。
- 5.22 ユーザーインターフェイス要求構造体に表示文字列の説明を追加。
- 8.3 kNkMAIDCommand\_Close に説明を追加。
- 9.15 kNkMAIDCapability\_Eject に説明を追加。
- 6章 戻り値、7章 イベントを追加。
- 5.16 NkMAIDRect を(x1, y1, x2, y2)から(x, y, w, h)に変更。
- 5.24 NkMAIDImageInfo 構造体ののwBits メンバを1つの値から4要素の配列に変更し、用法説明を追加。

# 11.6 Version 3.0 Revision 7 からの変更

変更履歴の順番を、最新のものが最後になるよう並べ替えた。

- 5.6 MAID エントリポイント関数の引数の型を LPNKFUNC から LPMAIDCompletionProc に変更。
- 5.11 および 10.6 MAID ユーザーインターフェイス要求関数に pObject パラメータを追加。
- 5.22 NkMAIDUIRequestInfo 構造体に data パラメータを追加。
- 4.10 eNkMAIDUIRequestType から kNkMAIDUIRequestType\_CustomOkCancel を削除。
- 4.15 色空間の項を追加。
- 4.14 kNkMAIDCapability\_Color から NkMAIDCapability\_ColorSpace に変更。
- 9.34 kNkMAIDCapability\_Color から NkMAIDCapability\_ColorSpace に変更。
- 9.6 kNkMAIDCapability\_Alive から kNkMAIDCapability\_IsAlive に変更。
- 5.24 NkMAIDImageInfo 構造体のメンバを ulColorSpace に変更。

# 11.7 Version 3.0 Revision 8 からの変更

変更履歴の順番を、最新のものが最後になるよう並べ替えた。

- 9.12 で参照する列挙値を eNkMAIDDataType から eNkMAIDDataObjType に変更。
- 5.19 NkMAIDRange 構造体に ulValueIndex と ulDefaultIndex を追加し、nSteps を ulSteps に変更。
- 5.22 NkMAIDUIRequestInfo 構造体に pObject を追加し、10.6 MAID ユーザーインターフェース要求関数から pObject を削除した。
- 5.18 NkMAIDArray 構造体から ulValue と ulDefault を削除した。この構造体は、もはや列挙には使われない。
- 5.26 NkMAIDEnum 構造体を追加。
- 4.3 eNkMAIDDataType に kNkMAIDDataType\_EnumPtr を追加。

- 4.5 eNkMAIDCapType に kNkMAIDCapType\_Enum を追加。
- 8.7 CapSet、8.9 CapGetDefault、8.10 CapGetArray に kNkMAIDCapType\_Enum を追加。
- 9.7 kNkMAIDCapability\_Children を kNkMAIDCapType\_Enum タイプに変更。
- 9.18 kNkMAIDCapability\_Mode を kNkMAIDCapType\_Enum タイプに変更。
- 9.22 kNkMAIDCapability\_SampleRate を kNkMAIDCapType\_Enum タイプに変更。
- 9.25 kNkMAIDCapability\_Filter を kNkMAIDCapType\_Enum タイプに変更。
- 9.29 kNkMAIDCapability\_Focus を kNkMAIDCapType\_Enum タイプに変更。
- 9.31 kNkMAIDCapability\_Resolution を kNkMAIDCapType\_Enum タイプに変更。
- 9.34 kNkMAIDCapability\_ColorSpace を kNkMAIDCapType\_Enum タイプに変更。

# 11.8 Version 3.0 Revision 9 からの変更

- 5.11 MAIDUIRequestProc から LPNkMAIDObject を削除。
- 9章にグループキャパビリティの説明を追加。
- 9.37 kNkMAIDCapability\_Lut を複数の色空間に対応させた。
- 5.22 ユーザインターフェイス要求構造体で配列構造体の使用法を明確にした。
- 3.4 項で kNkMAIDCommand\_CapGet と kNkMAIDCommand\_CapGetArray を説明するサンプルを統合した。
- 5.19 範囲構造体で 0 基点のインデックスを使うよう明記した。
- 5.26 列挙構造体で 0 基点のインデックスを使うよう明記した。
- 4.14 eNkMAIDCapability が 1 から始まるように変更。
- 7.5 kNkMAIDEvent\_CapChange の使用法を明確にした。
- 9.3 kNkMAIDCapability\_EventProc において、Object types に"data object"を追加。
- 4.7 eNkMAIDCapVisibility から kNkMAIDCapVisibility\_Normal を削除。
- 4.1 eNkMAIDResult に kNkMAIDResult\_NoDataProc 、 kNkMAIDResult\_OutOfMemory 、kNkMAIDResult\_UnexpectedError、kNkMAIDResult\_HardwareError を追加。

Added descriptions for new result codes in sections 6.12, 6.13, 6.14, and 6.15.

Added "thumbnail" to the supported object types for the following capabilities in section 9: kNkMAIDCapability\_Filter, kNkMAIDCapability\_Prescan, kNkMAIDCapability\_AutoFocus, kNkMAIDCapability\_AutoFocusPt, kNkMAIDCapability\_Focus, kNkMAIDCapability\_Coords, kNkMAIDCapability\_Resolution, kNkMAIDCapability\_Preview, kNkMAIDCapability\_Negative, kNkMAIDCapability\_ColorSpace, kNkMAIDCapability\_Bits, kNkMAIDCapability\_Planar, kNkMAIDCapability\_Lut, kNkMAIDCapability\_Transparency, kNkMAIDCapability\_Transparency, kNkMAIDCapability\_Pixels.

## 11.9 Version 3.0 Revision 10 からの変更

- 4.1 eNkMAIDResult に kNkMAIDResult\_MissingComponent を追加。
- 6.16 kNkMAIDResult\_MissingComponent を追加。
- 4.14 eNkMAIDCapability & kNkMAIDCapability\_ForceScan kNkMAIDCapability\_ForcePrescan

- kNkMAIDCapability\_ForceAutoFocus を追加。
- 9.41 kNkMAIDCapability\_ForceScan を追加。
- 9.42 kNkMAIDCapability\_ForcePrescan を追加。
- 9.43 kNkMAIDCapability\_ForceAutoFocus を追加。
- 5.22 NkMAIDUIRequestInfo 構造体に lpDetail メンバを追加。
- 4.3 eNkMAIDDataType に kNkMAIDDataType\_GenericPtr を追加。
- 4.5 eNkMAIDCapType に kNkMAIDCapType\_Generic を追加。
- 8.7 kNkMAIDCommand\_CapSet に kNkMAIDCapType\_Generic を追加。
- 8.8 kNkMAIDCommand\_CapGet に kNkMAIDCapType\_Generic を追加。
- 8.9 kNkMAIDCommand\_CapGetDefault に kNkMAIDCapType\_Generic を追加。

# 11.10 Version 3.0 Revision 11 からの変更

- 8章にコールバック関数内から非同期コマンドを出す場合の制限事項を追加。
- 4.14 項に kNkMAIDCapability\_NegativeDefault を追加。
- 4.3 eNkMAIDDataType から kNkMAIDDataType\_BoolDefaultPtr を削除。
- 4.16 eNkMAIDBooleanDefault を追加。
- 4.3 eNkMAIDDataType に kNkMAIDDataType\_BoolDefaultPtr を追加。
- 4.5 eNkMAIDCapType に kNkMAIDCapType\_BoolDefault を追加。
- 9.44 kNkMAIDCapability\_NegativeDefault を追加。

#### 11.11 Version 3.0 Revision 12 からの変更

- 4.3 eNkMAIDDataType から kNkMAIDDataType\_BoolDefaultPtr を削除。
- 10.5 項にコマンドの進行状態が計測できない場合の説明を追加。

#### 11.12 Version 3.0 Revision 13 からの変更

- 4.17 eNkMAIDModuleTypes を追加。
- 4.18 eNkMAIDFileDataTypes を追加。
- 5.24 NkMAIDImageInfo および 5.25 NkMAIDSoundInfo 構造体に fRemoveObject を追加。
- 5.27 NkMAIDFileInfo 構造体を追加。
- 8.16 kNkMAIDCommand\_ResetToDefault コマンドを追加。
- 9.45 kNkMAIDCapability\_CommunicationLevel1 を追加。
- 9.46 kNkMAIDCapability\_CommunicationLevel2 を追加。
- 9.47 kNkMAIDCapability\_BatteryLevel を追加。

- 9.48 kNkMAIDCapability\_FreeBytes を追加。
- 9.49 kNkMAIDCapability\_FreeItems を追加。
- 9.50 kNkMAIDCapability\_Remove を追加。
- 9.51 kNkMAIDCapability\_FlashMode を追加。
- 9.52 kNkMAIDCapability\_ModuleType を追加。
- 9.53 kNkMAIDCapability\_AcquireStreamStart を追加。
- 9.54 kNkMAIDCapability\_AcquireStreamStop を追加。
- 9.55 kNkMAIDCapability\_AcceptDiskAcquisition を追加。
- 9.56 kNkMAIDCapability\_Version を追加。
- 上記キャパビリティを 4.14 Capabilities 中の eNkMAIDCapability に追加。
- 3.1 項において、MAID モジュールファイルの置き場所を変更した。

# 11.13 Version 3.1 Revision 1 からの変更

- 9.44 kNkMAIDCapability\_NegativeDefault のタイプを BooleanDefault から Unsigned に変更。
- 4.16 eNkMAIDBooleanDefault から kNkMAIDBooleanDefault\_None を削除。

#### 11.14 Version 3.1 Revision 2 からの変更

- 4.14 eNkMAIDCapability に kNkMAIDCapability\_Firmware を追加。
- セクション番号 9.45 から 9.56 を 9.46 から 9.57 に変更。
- 9.45 項へ kNkMAIDCapability\_Firmware を挿入。

# 11.15 Version 3.1 Revision 3 からの変更

4.1 eNkMAIDResult に kNkMAIDResult\_VendorBase を追加。

# 11.16 Version 3.1 Revision 4 からの変更

- 4.18 eNkMAIDFileDataTypes に kNkMAIDFileDataTypes\_NIF を追加。
- 4.9 eNkMAIDEvent に kNkMAIDEvent\_CapChangeValueOnly を追加。
- 7.7 kNkMAIDEvent\_CapChangeValueOnly を追加。

#### 11.17 Version 3.1 Revision 5 からの変更

- 9.56 kNkMAIDCapability\_AcceptDiskAcquisition において、クライアントはファイル名でなく書き込み先フォルダを指定するように変更。
- 4.2 eNkMAIDDataObjType に kNkMAIDDataObjType\_File を追加。
- 9.12 kNkMAIDCapability\_DataTypes で kNkMAIDDataObjType\_File の使用を禁止した。

5.23 項 へkNkMAIDDataObjType\_File に関する説明を追加。

### 11.18 Version 3.1 Revision 6 からの変更

4.15 eNkMAIDColorSpace に kNkMAIDColorSpace\_AppleRGB、kNkMAIDColorSpace\_ColorMatchRGB、kNkMAIDColorSpace\_NTSCRGB、kNkMAIDColorSpace\_BruceRGB、kNkMAIDColorSpace\_AdobeRGB、kNkMAIDColorSpace\_CIERGB 、 kNkMAIDColorSpace\_AdobeWideRGB 、 kNkMAIDColorSpace\_NikonWideRGBg18、kNkMAIDColorSpace\_NikonWideRGBg22 を追加。

#### 11.19 Version 3.1 Revision 7 からの変更

9.56 kNkMAIDCapability\_AcceptDiskAcquisition のキャパビリティタイプを kNkMAIDCapType\_Generic に変更。

4.7 eNkMAIDCapVisibility に kNkMAIDCapVisibility\_Valid を追加。

# 11.20 Version 3.1 Revision 8 からの変更

4.15 eNkMAIDColorSpace に お い て 、 kNkMAIDColorSpace\_NikonWideRGBg18 を kNkMAIDColorSpace\_AppleRGB\_Compensated に 、kNkMAIDColorSpace\_NikonWideRGBg22 を kNkMAIDColorSpace\_AdobeWideRGB\_Compensated にそれぞれ変更。

# 11.21 Version 3.1 Revision 9 からの変更

4.7 eNkMAIDCapVisibility において、kNkMAIDCapVisibility\_Valid を kNkMAIDCapVisibility\_Invalid に、その値を 0 x 0020 に変更。

### 11.22 Version 3.1 Revision 10 からの変更

4.15 eNkMAIDColorSpace から kNkMAIDColorSpace\_AdobeWideRGB\_Compensated を削除。

#### 11.23 Version 3.1 Revision 11 からの変更

- 9.52 kNkMAIDCapability\_FlashMode を文字列列挙から整数値列挙に変更。
- 4.19 eNkMAIDFlashMode を追加。

# 11.24 Version 3.1 Revision 12 からの変更

4.19 eNkMAIDFlashMode に kNkMAIDFlashMode\_SlowSyncRearCurtain を追加。

#### 11.25 Version 3.1 Revision 13 からの変更

4.15 eNkMAIDColorSpace に kNkMAIDColorSpace\_VendorBase を追加。

#### 11.26 Version 3.1 Revision 14 からの変更

4.18 eNKMAIDFileDataTypes に kNkMAIDFileDataType\_QuickTime を追加。

# 11.27 Version 3.1 Revision 15 からの変更

- 4.14 eNkMAIDCapability\_enum に kNkMAIDCapability\_FilmFormat を追加
- 9.58に kNkMAIDCapability\_FilmFormat に関する記述を追加

# 11.28 Version 3.1 Revision 16 からの変更

- 4.14 eNkMAIDCapability\_enum に kNkMAIDCapability\_TotalBytes を追加
- 9.58に kNkMAIDCapability\_TotalBytes に関する記述を追加

# 11.29 Version 3.1 Revision 17 からの変更

- 3.1 モジュールのロード処理についての説明を変更。
- 3.16 モジュールの解放処理についての説明を変更。
- 5.24 Macintosh 環境のバイトオーダについての記述を変更。
- 5.25 Macintosh 環境のバイトオーダについての記述を変更。

# 11.30 Version 3.1 Revision 18 からの変更

9.57 kNkMAIDCapability\_Version の説明を変更。